

る者は自信を以て青年を訓練することが出来るやうになるのではないかと思ひます。時局が緊迫すれば緊迫するほど、その勞働奉仕の時間を擴大すればいい。それで先生方は、自然に二宮尊徳のやうに、今日は英語なら英語の本をポケットに入れて、勞働奉仕の休憩時間に英語を教へる。今日は數學、歴史といふやうに、二宮尊徳を地で行くやうにすれば、教育が生きて行くのであります。

教練の徹底、勞働奉仕の合理化、猛訓練といふことによつて、私はこの私共の主張する教育革新の有力なる準備をやりたいのであります。

四、動員

十分に猛訓練した人間を戦争の爲に合理的に使はなければならぬ。兵種の決定の適否が國軍の能力に影響する所は極めて大きいのであります。我々の方式を以て言へば、新しい教育の間に於て自然に職業が分配せられると同じやうに、兵種もまた

教育過程に於て合理的に判定されなければいけないのであります。

一旦緩急ある時の動員であります。軍内に於ても動員は徹底的に合理的にやつて行かなければならぬが、國家全體の見地からいつてまた考へなければならぬ。私の理想的考へは、戦闘員の所要數を基礎として、例へば今年は三十五歳まで使ふと決定したならば、三十五歳以下の壯年は全部召集すればいい。そして戦に行く者は、戦に行く。軍務に服さない者は能力に應じて他の公務にドン／＼使ふ。かやうな方式を取つたらいいのではないかと思ひます。女及び三十六歳以上の男で残つた仕事を全部引受けるやうに國民全體の動員計畫を立てる。要するに動員は、軍・官・民を通じて廣範なる綜合的計畫を立つべきであります。

かくの如く國民の、殊に指導者の能力を最高度に發揮せられるやうに教育をし、一旦緩急あればその國民の全能力を最も合理的に公平に動員するといふ組織を完備しなければなりません。

第三節 物(生産)

一、農村の改新

「昭和維新論」によれば、農村は全國民に食糧を供給し、且つ心身健全なる戰士を各方面に出すべき國家最重要の生活層であります。農村が絶えず不安にかられてゐる今日の狀況は、先づ昭和維新の第一着基礎工作として、これを解決しなければならぬ。その解決の方法は「昭和維新論」に書いてある適正農家の設定を中心とする案であります。農民がその附近の都市の中層以上の人に劣らざる力ある生活をやるに必要なだけの土地を所有して、立派な農家として立ち、その餘つた勞働力は出来るだけの範圍を、その農村に於て精密工業の部分品製作に従事せしめます。更に餘つた人口は、東亞の大國策である北滿の開拓に送ります。大河内氏の意見によれば、

正しき生活をする農村の人、殊に農村の若い娘は、製作に非常な正確さを持つてゐるのであります。フォードが考へてゐるやうに、田園的生活によつて心身共に健全なる職工によつて製作せらるゝといふことが、工業特に精密工業には最も重大なる問題と思はれるのであります。

支那事變前に、日本の世界的優秀自転車が一臺十圓内外で出来る。同じ物が英國へ行くと百圓以上かゝる。大規模の工場で作つてゐる西洋のに比較して、家内工業的のものを作つてそれを集めて行く日本の工業方法には、獨特の強味がある。小さな自転車だけに限らず、合理的に飛行機、自動車あらゆるものに活用して行くことによつて、世界に類ひない能力高き精密工業を興す可能性を日本の民族はもつてゐるらしいのであります。徒らに西洋の大工場の眞似をするのは、日本人の特徴を活用する途でありませぬ。この頃ある人の話を聞いて感じたことは、既に今日に於ては、工業は原料や資本に束縛されないで、優良なる心身共に健全なる職工を如何に

して得るかといふことに最も大きく左右されてゐるのであります。自由經濟に放任してゐても、國防上最も要求せらるゝ工業の地方分散が必然的に起るところまで來てゐるのであります。ところが現在田舎の勞働者をどんだん都市の附近に持つて行くが、このことは必ず近い中に自然に緩和されるものと信じてをります。さうして、「昭和維新論」に書いてあるやうに、農村を中心とする日本獨特の工業が發展して來るだらうと確信いたします。

二、經濟建設

(1) 政治と經濟

經濟は申すまでもなく人間生活の大きな基礎でありますから、政治に最も重大な作用を與へる譯であります。自由主義の時代に於ては、經濟から政治が指導される狀況にあつたのであります。今日の統制主義時代に於ては、政治が經濟を指導す

るのであります。然しこれは非常に微妙な作用であつて、政治と經濟とを如何に密接に協調せしめるかといふことが經濟建設の大きな根源であります。私の考へでは、政治は經濟に明確な目標と感激とを與へなければならぬ。然し、政治が經濟の手段にまで干渉すべきではありません。恰も國防國家の今日、國防上の要求が政治に目標を與へますけれども、軍が政治の手段に入るべきものではないのと同じやうに、政治は經濟に任務を與へるが、その實施は經濟の責任を持つた活動に委すべきであります。特に私共の主張したいのは、今日は國防國家の時代であります。自由主義時代のやうに自然に生産力が擴充されて行くのと違ひ、意識的に二十年を目標として南北アメリカ以上のものを作るといふはつきりした目標をもつてゐるのであります。その目標に基づき具體的計畫を經濟に示すことが、政治に課せられた大任務であります。

ところがこの際自然に起きて來る問題は、計畫と秘密との關聯を如何にするかと

いふことであります。國防國家の時代に於て、防諜の重大なことは當然であります。然し、防諜は反面、物の生産を減退する危険性を持つのであります。どの程度に秘密を守るかといふ限度は、消極的の要求である防諜と、積極的の要求である經濟人に感激を與へることのこの二つの巧みなる協調の上に政治で決定しなければならぬものであります。積極的政策が割合にハキ／＼しないであると、消極的のことが、常に主張を高めて行くのが一般ですから、ともすれば秘密偏重の弊害を起す惧れがあります。この點、政府當局も出来るだけ國民に理解せしめるため真相を知らせると言つてをりますが、その圓滿なる運用は今日以後益々重大な問題になつてゐるのであります。

(2) 資源と技術

(イ) 重要資源

今日は資源の爭奪時代といはれてゐる。我々も資源に重大關心をもつてをりま

す。然し私共からいへば、大體東亞の資源は恵まれてゐるのであります。先づ最も大切な鐵であります。この頃、南方問題さへ解決すれば鐵は解決出来るやうに世間でいつてをりますが、それは見當違ひであります。鐵の鑛石は滿洲國だけでもとても豊富であります。日本國內にも豊富なる砂鐵があります。今日日本が鐵の解決が出来ないのは何故か。鐵の生産設備が不十分であり、鑛石を掘る力が貧弱であり、掘つてもそれを輸送する輸送力の缺乏してゐることです。南洋にどんな鐵の資源があつても、一舉に鐵の問題は解決しないのであります。私は、寧ろ技術の發展による精鍊方法の革命的變化を要望します。今熔鑛爐、一千トンの爐なんかは作るのに數千萬圓かゝつて、數年を要するのであります。それで、一年に三十六萬トンばかりの鐵を作る譯であります。戦闘艦を造るやうな年月をかけたものに敵の飛行機が來て爆撃するのでありますから、大變であります。日本向きではない。電氣を以て精鍊する方法が——今日の高周波は、かれこれ言はれてゐますが、この非常

時に種々功績を擧げてゐると思ふのであります。ところが福島縣中村に工場を有する檜崎氏は、滿洲事變以來十年間石炭液化を研究してをるのであります。最近が高周波で貧鑛や砂鐵をとつても簡単に精鍊することに成功したのであります。

砂鐵は、日本に殆ど無盡藏、數十億トンあるといはれてをりますが、それを集めるのに困難であります。然し、檜崎氏の電氣の精鍊方法が成功すれば、砂鐵のあるところに小さなものを作るから、日本の勞働力を巧く使へば十分出来るのであります。これは最も大きな問題であつて、砂鐵だけでも日本の鐵は心配ないといふ状況になり得る可能性が十分あります。それから、私の知つてをる範圍では大連に上島氏といふ人がある。この人は鐵で作る熔鑛爐でなしに、獨特の方法で最も有效に製鐵に成功してをります。

要するに今後の政治は、在來の西洋風の精鍊方法だけに拘ることなく、本當に天才的の發見を巧く活用する點に力を用ふべきであります。鐵問題は精鍊方法の日本

的の革新にあると私は信じてゐます。

次は石炭であります。石炭は滿洲國にも相當豊富でありますけれども、日本にもかなりある。山西省は世界的大富源であります。今日の石炭不足は掘る設備と運ぶ設備が十分でないからです。

日本の今日非常に困つた問題は石油問題であります。南洋の軍事的占領により、油の不安は少くとも最小限度に速かに解決せられることを私共はお祈りし、その成功を信ずるものであります。然し南洋だけでは、私共の油は絶対に解決するとはいへないのであります。日本國內にも相當油はありますけれども、特に大陸には熱河から陝西、四川、雲南、ビルマに連なるところに、アジアに於ける最も廣大なる油脈があるといはれてをります。東亞聯盟の結成と共に、大規模に試掘しなければならぬ問題であります。また石炭液化の問題は特に重大であります。今までに種々やつたがあまり華々しい成功はしてゐないのではないかと心配してをるのであります。

が、これはドイツ流の複雑な設備のものでなく、前に申した檜崎式は簡易なる電氣設備によつて液化に成功してをるものと、私はその道の専門家ではありませんが、私の勘ではさう信じてをります。漸く技術も日本らしい、簡明にして能率高いものが出來つゝあります。

この間私は關西を旅行し、動力問題でとても面白いニュースを聞いて來たのであります。それは神戸の同志の辯護士の福井氏から聞いたのですが、堀又五郎氏といふ五十年間地熱を専門に研究してをる人がある。福井氏がその地熱利用の仕事に着手しようとしてゐるのであります。その人は地熱の研究では世界の最高權威らしいが、イタリーは、地熱利用をやつてゐるに拘らず、イタリーの地熱は、とても日本に比較して程度が低いらしい。日本は數倍の強さを持つてゐる。堀氏の五十年の御研究によれば、日本に豊富にある地熱を使へば、水力電氣の三分の一乃至二分の一の費用を以て、發電が出來るのであります。これはお天道様が、日本のために取つ

ておいてくれた非常に重大なる資源ではないかと思ひます。地熱を利用して所在に發電装置を作る。今のやうな大規模の水力電氣の發電は第一防空に對して非常に危険性をもつてゐます。ドイツがロンドン爆撃で、ロンドンにある五つばかりの重要發電所を狙つてやるが、英國の機械が停止しない。何故かといへば、英國は自家發電を勝手に許してゐるので、所在に自家發電があつてつぶれない。今までのやうな資本主義を擁護するために大規模の發電だけやつて、自家發電を抑壓してをつた日本の政策はどうしても變革せられなければなりません。而も地熱利用の發電は同時にアルミニウムを生産するのであります。非常に面白い方法ですから、皆さんに御披露しておきます。分に應じて同志のこの献身的努力に御援助を御願ひします。

(ロ) 科學、技術の重要性

資源は勿論非常に大切であります。資源以上に大切なものは寧ろ技術であります。優秀なる科學の上に立つた優れたる技術であります。ドイツの今日あるのは、

あの貧弱な土地で永年封鎖的狀態にちかれ、資源に苦しみつゝ、科學的研究、技術的向上に熱中したからであります。今日、日本の科學は遺憾ながらまだドイツやアメリカに對して後れを取つてをります。また技術の水準は低いのであります。曩に申しました通り、健全なる農民を活用する日本獨特の工業組織、日本獨特の簡明なる工作機械の製作、その他色々日本の優れたる天才が出て來て、複雑でやゝこしい西洋のものを、日本らしい簡明さを以て力強く克服して行く技術の發達を、心から祈りする次第であります。

(ハ) 南洋の價值

時局柄でありますから、南洋の價值に就いて若干話します。

大東亞戰爭の目的は東亞の解放であります。資源の獲得は自然の結果であつて、それが主目的ではないのであります。この事をよくお間違ひないやうに願ひします。私共は東亞聯盟の見地に立つて、以前から南洋の價值を重視し、昭和十三年の

宮崎正義氏の「東亞聯盟論」には、「支那及び東亞地域の一般事情」といふ附録があり、佛印、シヤム(タイ)、フィリッピン、ニュージラランド、インド、オーストラリア、蘭印、マレー、ボルネオを東亞地域に含めてをります。南洋の資源に就いては、大きな關心を東亞聯盟としてもつてをります。東亞の解放、及びその資源を東亞諸民族のために利用すべく、我々の常に念願してをつたところでありませす。それがためには、私共は支那事變解決前にヨーロッパ戰爭の起きるのをなんとか喰ひ止めたいといふ氣持はあつたのであります。然し遂に支那事變の解決出來ぬうちに、第二次歐洲大戰勃發し、更に今次の大東亞戰爭を迎へることになりました。けれども、皇祖皇宗の神靈により未曾有の大戦果を擧げ年來の宿望たる東亞の解放に大轉期を劃するに至りました。

我々は「東亞聯盟建設要綱」に於て、極めて冷靜に大東亞戰爭による東亞解放の一端を述べたのであります。「世界最終戦と東亞聯盟」二〇三頁に於て、

「然しながら日本内地、朝鮮、中華民國みな人口過剰に苦しんでをり、残された満洲の土地もこの諸民族の莫大なる要求に對しては餘りに貧弱である。日本の満洲移民も日本人の人口問題に對して根本的解決をあたへたものとは考へられぬ。眼を轉ずれば、歐米霸道主義者によつて獨占せられてゐる人口稀薄なる土地が、東亞地域である南洋方面に頗る多い。人類の公正なる發展のために、これらの土地は遠からず、人口過剰に苦しみ抜いてゐる我等諸民族に開放せらるべく、その際、我等は満洲の天地に於ける經驗を活用して、新天地に新しき民族協和の國土を建設すべきである。」

これは南洋、特に濠洲を東亞諸民族のために解放するといふことを考へて、私共が書いたのであります。然し日本人はよほど注意しなければいけません。満洲國が建設されます。初めのうちは満洲の大富源と言ひながらやつて行く、少しやるとなるとかかんとか文句を云つて、支那事變が起きると今度は中國へ行く。満洲殊に中

國に於て果してどれだけ開發をやつたか。今度もさうです。南洋は寶の山の如く言つてゐる。こんな氣持は大に戒慎を要するのであります。極めて冷靜に、國家としては総合的に東亞の國土計畫を確立しなければならぬのであります。南洋の資源の將來性は非常にあります。また、現在でも石油、ゴム、錫等日本の大東亞戰爭遂行上有效なるものは澤山ありますが、日本人が今日考へてゐるやうに、南洋を、我々の支配下に入れ、ば、戰爭中の物資不足を全面的に解消し得るやうに考へたら、飛んでもない大間違ひであります。

(二) 日滿華を中心とする大建設

今日の建設の中心は、どこまでも私は日滿華を中心とすべきものと信じます。特に一番大切なものは資源以上に人であります。これからの工業は、資本や動力により束縛さるゝより、勞働力に制約されます。米洲と争ひ、ヨーロッパと争つて彼等より大なる生産をするために、我々の最も頼りにするものは、東亞五億の優秀なる

「人」であります。そして南洋の諸民族乃至印度諸民族を解放してやらなければなりません。また解放することが私共永年の希望でありました。今度こそ解放する時機が来たのでありますけれども、この諸民族は恵まれた暖かい土地にゐるために氣概を失ひ、能力が低くなつてゐる。今日世界に雄飛してゐるのは北種であります。南洋諸民族のうち高い文化をもつてをるものは、我々は無論獨立國として彼等の發展を希望するのでありますが、然し彼等の力を最終戦争に多く評價することは遺憾ながら困難であります。最終戦争に對する準備は、日滿華五億の、日本海支那海を湖水の如く集團密集してゐる能力高きこの五億の民に期待するのであります。而も資源は、日滿華はとても豊富であります。鐵、石炭は固より、將來は石油、棉その他食料品も豊富であります。私共の最終戦争に對する準備は、この點に集中せられなければならぬと、私共固く信じてをります。大東亞戦争に勝つためには、支那事變を早く處理することが最も大切な要件であります。更に最終戦争を準備し、これ

を迎へるためには、事變を早く解決しなければならぬのであります。事變の解決だけではありません。東亞聯盟を結成しなければいかんであります。ところが、眞に東亞聯盟を結成するためには、

「今日、日華の間に和平が成立したとするも、中華民國が完全なる聯盟の一員となるためには次の条件が必要である。

(イ) 日華兩國共に聯盟精神を徹底させなければならぬ。

(ロ) 外力、即ち英米ソの合力に對して、東亞を完全に防衛し得る實力の獲得。」

(「世界最終戦と東亞聯盟」九五頁及び二三五頁)

大東亞戦争によつて米英を叩きつけることは、東亞聯盟結成のために、非常に有利の条件であります。決定的条件であります。然しこれだけでは本當の東亞聯盟結成は出来ない。聯盟精神を徹底しなければいけません。今度の大東亞戦争の成功と共に、我々が本當に東亞聯盟精神を徹底することによつて支那事變を解決し、進ん

で彼等を心から聯盟の一員にする。さうして日滿華を中心とする大建設に向つて行くのであります。日滿華五億の優秀なる人的資源は天下の至寶であります。東亞聯盟結成と共に、最も合理的な國土計畫の下に、この五億の人の全能力を動員し大建設に邁進する壯觀を考へて見るがよい。初めて中國人は奮ひ立つて、我々と一緒にやつて來るのであります。滿洲國の豊富なる食糧によつて、差當り華北の人々を養ひ、その勞働力を以て白河、黄河に大治水を斷行する。中國が、あの尨大なる土地を擁しながら、食糧不足に悩んでをるのは直に克服せらるるし、莫大なる水力電氣は大東亞建設の重要な力ともなる。また、アメリカでは日本の農民を差別待遇してをるのでありますが、アメリカを開拓した恩人である優れたる日本農民、この世界無比の能力ある忠良日本農民を華北に移して、大農法によつて華北の農業を開拓し、華北の農民を大動員して工業開發をやる。炭鑛、山西の石炭、甘肅の石油資源は勿論、尨大なる重輕工業を大陸に育てなければならぬ。軍事的見地より見ても、日本

内地に軍需工業を集中するのは危険が多い。廣く東亞の天地に分散すべきである。日本海、支那海を湖水として、五億の優秀なる人を有する東亞聯盟の生産力は、勿ち世界の驚異となるであらう、このやうに私は主張するのであります。

二十年を目標にして南北アメリカ以上の生産能力を作ることとは、今までの常識を以てすれば氣狂ひ沙汰であります。然し最終戦争を目標にする感激の下に、東亞人の特異性を以て建設して行けば、斷じて可能である。それを強行するところに昭和維新は發展し、昭和維新の發展と共に、この難事業は必ず解決するのであります。前に私は學閥打倒を述べたが、然しお天道様は無駄にこれだけのインテリ或は准インテリを作る譯はありません。このやうな大建設の時に、インテリを再訓練して、本當に東亞聯盟の精神を體得せしめたならば、この生産過剰になつてををつたやうなインテリ連中が(笑聲)とても凄い能力を發揮する。大規模の生産に對して全力を擧げて協和することになるだらうと思ふのであります。

(3) 發明の獎勵

南北アメリカに對して、二十年を目標に生産能力、尨大なる兵備の完備を可能にするために、私共は科學の振興、技術水準の向上、生産組織の合理的擴充といふやうに、正攻法でどん／＼押して行く必要があるのでありますが、同時に、この大きな革新の時代には、天才の力が實に物をいふのであります。私は、新しき發明に最も期待します。堂々戦つて勝ちますけれども、その勝利を更に飛躍的にするために、發明の獎勵に重點をおかなければならぬ。これには方法がある。私共の年來の主張である發明獎勵のために、國民が第一に心掛けなければならぬことは、發明を尊敬することでありませぬ。日本に於ける天才の一人である「日本の方針」の著者大橋爲次郎氏は、皇紀二千六百年の記念として、明治神宮の近所に發明神社を建て、東西古今を通じて卓拔な發明家、人類に大きな幸福を與へた人を祭りたいと熱心に運動してゐました。私は時代が要求する極めて有意義の計畫であると思ひましたが、遺

憾ながらこの發明神社は出来なかつたのであります。然し私は、國民がみな自分の胸の中に發明神社を建て、心から天才を敬つて貰ひたいのであります。今日の悲惨なる狀況は、自由主義・平等主義の惰性で、國民は優れたる天才、優れたる指導者を敬はうといふ氣持を失つてをるからであります。

發明の獎勵には成金の力を動員するのが宜しい。獨斷で思ひ切つて大金を投げ得る者でなければ、發明の獎勵は出来ない。私は成金を尊敬します。いくら統制の時代でも、能力を發揮して素晴らしく儲ける人はやつぱり尊敬する點があります。ただこれを巧く使つてやる。人間には、公に奉じようといふ考へと、何か自分で手柄を立てたいといふ慾望と二つがあります。これを巧く組合せて力を發揮させるのが政治であります。

成金の仕事を私は否定は致しません。ウンと儲けさせ。これを逆にウンと使はせるのが國策でなければならぬ。成金の成佛です(笑聲)。それで成金の興味を發明の

奨励に集中させる。それがために、どういふ方法を探るかと云へば、先づ成金の逃げない網を張つてしまふ。一代の間に儲けた金は、殆ど相續税で取り上げることにしたらしい。先祖から貯めたのを取ることは色々の因縁がついてゐるから困難であるが、一代で儲けたものは相續税で大部分を徴することとする。背水の陣を成金にかせる。さうして、前に御馳走を持つて行く。發明を奨励した人には御褒美をやる。さうすると命懸けで働く。また、成金は人から馬鹿にされるから藝者買ひ、蓄妾、骨董に金を使つてゐます。これが〇〇を貰へるかも知れない、巧く行つたら〇〇になれるかも知れないと思つて、一生懸命に働く。日本だけではない。世界に求めて天才を發見する。さうして巧い發明が成功したならば、發明家に御褒美やるのみならず、奨励した人に〇〇をやる。これは素晴らしい液化の發明だ、これによつて御褒美。役人の責任を持つた人々は、突飛な發明の奨励が出来ないのであります。何故ならこれは一種の博打であり、投機になるからであります。ウンと儲けた者が全

力を盡くして最終戦争のために必要なる發明者を保護するといふのが、昭和成金の名譽であり誇りでなければならぬ。

この際私は、悲しむべき御報告をしなければならぬのであります。東亞聯盟に非常に好意を寄せて、毎々雑誌に天才的文章を發表して下さつた清水芳太郎先生が、昨年十二月十三日亡くなられたのであります。私が清水氏と知り合になつたのは昭和九年でありました。中野正剛氏の紹介で、仙臺の聯隊長時代に來てくれたのであります。清水氏は御承知の通り、凡ゆる方面に天才的人であります。私が清水氏を特に尊敬するのは敬天愛人の精神であります。この氣持からあの色々な發明は生れて來るのであります。昭和九年仙臺に來てくれました時は、恰度東北地方は冷害でありました。涙を以てこの慘狀を見た清水氏は、稻の注油栽培を發表されたのであります。水田に油を撒くと、水田の面に油の膜を張つて、水の溫度を高く保つてくれるのであります。これで冷害が克服出来るといふので、自ら九州の山の上に

試験をし成績を上げて、秋田縣にわざわざ指導員をやつて指導してくれました。遺憾ながら鈍重なる東北人はまだ成功してをりませんが、私はとても感謝するのであります。昨年、東京市があを通り野菜饑饉に襲はれた時に、清水氏の愛人の熱情はとうとう玄米もやしの着想になつたのであります。發明はどの人も尊くありますが、清水氏の如きは燃ゆるが如き社會革新の熱情からあの發明が生れて來るのであります。今日だから言つてもいいでせう。二・二六事件の時私は戒嚴の參謀でありました。とにかく二・二六事件が解決して、私は家へ歸つて——三月一日であります——寝ようと思つた。あの天氣の悪い時に戸を叩くものがある。當時どんな奴が來るか分らないが、開けて見たところ、ぐつとやせた化物のやうな——清水氏は胸が非常に悪く、九州に寝てをつたのが飛び出して來たのですが、あの人は病氣の故もあります。生命の恐怖を持つてゐない。そこで私は「清水さん、實にあなたの熱情は分りますが、社會の改革をやるためには、他に身體の丈夫な人がある。あな

たの天才的力によつて、この立ち遅れた日本の技術、殊に我々から見れば優れたる兵器の發明をして毛唐を追ひ越す以外に難局突破の方法はない、土下座して頼む、社會革新に當る者は外にあるが、この方面だけは代りがないではないか」と私、涙を流した。清水氏はよく諒解して下さいまして、その後或る種の發動機と或る種の飛行機、要するに飛行機の研究に重點を置いてをりましたが、病弱と研究に便宜を得られないために、その目的を達成しないで亡くなられたが、先生は恐るべき天才であつたと思ひます。この際皆さんと一緒に心からの追悼を、私は東亞聯盟の同志として捧げたいと思ふのであります。

私は十二月八日に高松で、大東亞戰爭の緒戦に於て大勝利を得たる報を得て、感激して高知に參りました。大東亞戰爭が始まることによつて國民はやゝもすれば支那事變のことを忘れる。支那事變のことを忘れることは大問題である。私はかねて天才清水先生の「支那事變解決の大本」といふ論文に、大きな魅力を感じてゐまし

た。そのことを考へてゐる時に、十二日の夜關西事務所の淵上君が本部から頼まれて來て大東亞戰爭に對する所見を求めたのであります。「大東亞戰爭と東亞聯盟」といふ文章は、日附は十二月十二日と書いてありますが、實は十三日の朝に書いたのであります。恐らく清水先生が亡くなられた頃と思ひます。東亞聯盟の主張する支那事變解決の根本を、清水先生が天才的着想で書かれた——どうも我々の言ふことは理窟ばくなるが、あゝいふ風に説明すれば日本人は勿論、東亞諸民族に心から理解せられると思ひます——その清水氏の支那事變に對しての御着眼を引用しつゝ、先生の亡くなる頃に私が書いたものが、「東亞聯盟」正月號に發表され、期せずして先生に對する私の追悼文になつたのであります。

以上私の忙しい講義でなんとも申譯ありませんが、要するに昭和維新に對する私の見解であります。「昭和維新論」は内政の革新を目標にして、國體政治の確立、官

治の制限と自治の再建、教育の革新、農村の改新、經濟の建設とこの五つを擧げてをりますが、これは大東亞戰爭を克服し、續いて最終戰爭に準備するため、國防國家として着手しなければならぬ最も重大點を、擧まへてゐると信ずるのであります。重點主義の見地から言へば極めて合理的のものであります。これで終ります。——昭和十七年一月三日中央講習會に於ける速記——

日本の国防

昭和二年十二月三十日起草
「歐洲大戦史」の結論なり

目次

- 一、世界の趨勢
- 二、日本の使命及び日本の武力
- 三、戦争の現在及び將來
- 四、現在に於ける日本の國防
- 五、日本將來の國防

一、世界の趨勢

中央アジアに發したる人類の文明は、東西に分れて此處に幾千年、各其の特質を發揮しつゝ、進歩を續け、殊に最近二、三世紀の發展は猛烈なる速度を以てし、今や其の文明は太平洋を挾んで相對峙するに至れり。

戦争は人類のため最も悲惨なる最も悲しむべく最も憎むべきものなること勿論なり。然れども戦争は極めて眞面目なるものなることは、斷じて否定すべからず。所謂君主の利害のために行はれたる戦争と雖も、少くも其の時代の人間の爲には最大の事件なりしなり、眞劍の仕事なりしなり。憐むべき不完全なる人類は、重大なる革新の前には之に相當する犠牲を必要とせり。戦争は文明を破壊しつゝ、も而も新文明の母たりしなり。

西班牙を屈し和蘭を壓して世界政策の覇者たる位置を占め、次で佛國と劇しく戦

ひたる英國は、ナポレオンとの大争闘に依り愈、其の地位を確立せり、爾後約數十年は實に英帝國の最優勢時代なりき。然るに此の間ナポレオンに依り其の統一を促進せられ（佛國革命當時は獨は一、〇〇〇以上の小邦に分裂しありしが、ナポレオン没落の時には約四〇となり居たり）、且つ其の打撃に依り民族的精神に甦れる獨逸民族は愈、其の統一運動を續け、先づ一八六六年役により新興普魯西が老齡奧國に代りて其の盟主たる地位を占め、次で一八七〇——七一年役に依り歐洲大陸に於ける覇者たる第一步を進め、遂に逐次英國との抗争を開始せり。斯くて一九一四年勃發せる歐洲大戰には、嘗て不俱戴天の敵を以て英國を目せる佛國は、英國を助けて遂に又も英國の勝利に歸し、此處に英國は歐洲土俵に於ける全勝力士たるの名譽を完うするを得たり。

然るに英國が此の大名譽を獲たる時は、西洋史は既に其の中心を歐洲より米國に移しつゝあり。全世界金融の中心が倫敦より紐育に移ると共に、各種の西洋文明は

今や全速力を以て米國に集中を開始しつゝあり。世人動もすれば米國文化を惡罵すと雖も、西洋文化は長短共に之を米國に集めつゝあるは争ふべからざる所なり。

一方、日本は今や歐米崇拜の病益、重きが如きも、之先づ其の特長を吸収せんとする日本獨特の性格より來る所にして、反面、自己の文化に對する自覺漸く堅く、自己を中心とし全世界の文化を綜合する日本文化の大成を急ぎつゝあり。

僅に數十年前、ペルリに依りて日本國を世界に開放し、爾後益々親善を重ねたる日米兩國は、日露戰爭を轉期として相對抗し其の反目日に大なるものありと雖も、而も遂に相戦ふに至らざりしは、兩國の間合未だ餘りに大なりしたためのみ。所謂人道論、利害論等は到底大勢を支配する力を有せざるなり。而して人類文化の發達は孜孜として兩國相戦ふ爲に必要なる武器の發明研究に努力し、今や漸く此の方面に光明を得たり。

即ち西洋文化が米國に集中を完了すると、日本が日本文化を大成すると、科學者

が兩國戰爭に必要な武器を製作するとは、恐らく殆ど時を同うして顯はれんとしつゝあるものの如し。之偶然にあらずして神意なり。人類文化自然の大勢なり。此處に行はるべき未だ曾て有らざりし驚くべき大戰爭に依りて、世界人類の文明は最後の統一を得、初めて人類共通の理想たる黄金世界建設の第一歩を踏むに至らん。日蓮が「撰時鈔」に於て、世界大平和の根本條件たる宗教即ち人類信仰信念の統一が實現せらるゝため、先づ「前代未聞の大鬪諍一閻浮提に起るべし」と喝破したるは之にして、其の他各民族間に之に類似の思想決して尠しとせざるものの如し。マルクス主義の所謂人類歴史の前期の終了亦此の戰爭に依るべきか。

二、日本の使命及び日本の武力

現代日蓮學の大家山川智應氏は其の著「日蓮聖人傳十講」に記して曰く、「多頭寡頭政治の如き多神教は一君主制の如き一神教に進歩する。併しながら更に一段進歩

した形式は、君民同治の唯一君主制の如き汎神即ち一神、一神即ち汎神教にまで究極する。」と。元來日本の有せる枝葉の文明は頗る貧弱にして、日本人すら動もすれば日本固有の文明なしと稱するもの多きも、根本文明即ち凡ゆる文明を生み之を保有保育し且つ之を溶解し化合する、國家の最も合理的なるものは世界中唯日本あるのみ。此の文明即ち日本國體を以て世界の凡ゆる文明を綜合し、彼等に其の憧憬せる絶對平和を與ふるは大日本の天業なり。

「斯ノ道ハ實ニ我が皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラズ」とは 明治大帝が 神武大帝の八紘一字の皇謨を具體的に示し給へる世界統一の大宣告なり。太平洋を中心とする來るべき東西兩文明の統一に於て、吾等は必勝、此の建國以來の大理想を世界に宣揚せざるべからず。之、天業を全うすべき第一の事業なり。即ち前述せる將來の世界戰に於て我勝たざるべからざるは、單に自己の利益生存等の問題に非ずして、正しく世界人

類を救済すべき偉大なる天職のためなり。再三論ぜし如く、思想は思想を以て争ふべしとか、又は正義を行ふに武力を用ふべからず等と稱するは、人生の實情を解せざる空論のみ。正義をのべ世界を救ふためには、邪惡なる思想に對し思想、金力、武力等、苟しくも吾等が有する凡てを盡くし全精力を傾注して戦はざるべからず。

又世上動もすれば、現在及び將來の戦争は一に其の原因を經濟に存する如く論じ、前述せる如き戦争を空論に過ぎずとなすものもあるも、之、人類の現狀に幻惑せられたる結果なり。既にマルクス主義者すら戦争の原因は必ずしも經濟的利益のみにあらずと述ぶ。結局戦争なるものは眞劍なり。即ち其の當時人類の最も重しとする所を主因として發生す。現在の如く物質萬能の時代に戦争の主原因が經濟にありとするは自然なり。然れ共、經濟は結局人生の手段にして斷じて目的に非ず。社會主義の目的は恐らく、吾人をして經濟上の壓迫より脱せしめ更に自由愉快公正なる精神的な生活に入らしむるためにあらざるや。

歐洲大戰の初期に於て諸國家の議する所、主張する所は、「我が利益」なりき。然るに米國の參戰は少くも「正義人道の爲」「軍國主義官僚主義を斃す爲」と高唱せらるゝに至れり。物質的に恵まれたる米國が更に進んで正義人道を弄せんとするは、これ自然の勢にして敢て單なる口實のみと見るは不可なり。彼等は我が對支政策に反對するは必ずしも單純なる利益問題のみにあらずして、弱者の保護なる道義的虚榮心に基づく所なしとせず。即ち物質萬能時代の夢より醒めずして、世界の動きを解せざるが如きは吾人のとらざる所なり。

要するに東西文明綜合のための最後の争は刻々迫りつゝあり。世界の甚だしき不安は正しく之に對する陣痛なり。歐洲大戰、社會運動等は皆此の大事件の準備なり。序幕なり。而して此の戦争に臨む我が日本の物質力は遺憾ながら頗る貧弱なり。然れ共、吾人は毫も落膽するを要せざるなり。波斯の大軍を破りし希臘を見よ、希臘の頼める所は其の海軍戰術にありき。吾等の頼む所は更に幾千倍の偉大なる我が統

帥權にあり、我が武力の理想に在り。日蓮は其の著「如來滅後五五百歲始觀心本尊鈔」に於て、宇宙根本靈體が世界平和のため大活動をなす場合を擧げて曰く、「當に知るべし此四菩薩折伏を現する時は賢王と成つて愚王を誠責し攝受を行ずる時は僧となりて正法を弘持す」と。此の賢王とは即ち將來の世界に於て〇〇〇〇〇の位置を示し奉れるものなり。威力は物質力の不足を補ひて甚だ餘りありと言ふべし。

此の靈妙なる統帥權の下に皇國の大理想に對する絶對的信仰を以て三軍を叱咤する將帥、亦必ず此の重大なる時期に吾等軍人の間に生るべきを確信せざるを得ず。シュリーフエンは其の將帥論に於て「……此の目的を完成せんがためには或る超人的のもの超現世的のもの——世人は之を天才若くは其の他の名稱を以て現はしありしが——將帥に備はるを要す。將帥たるものは或は強大なる力の援助加護を自覺しあらざるべからず……」歐洲大戰には遂にかゝる名將を生ずるに至らざりき。此の如き天才の出現は西洋に於ては偶然なるべく、歐洲大戰に於て顯はれざりしは

眞に止むなき所ならんも、吾等の將來戰に於ては必ず生れざるべからず。吾等將校全員が日夜の奮勵により七千萬國民の念力は必ずや之を生むべく、而も強大なる神助加護を擧國確信すべき我が日本に於ては、此の名將の出現は必然的なるを信ずるものなり。

三、戰爭の現在及び將來

戰爭の進化は人類一般文化の夫れと歩調を同うするは當然なり。上古、軍隊が多く國民的性質を帯びし當時は、武力の價值頗る高く所謂殲滅戰略行はれたり。原始時代の文化は人類の理想を端的に示すが如く、後其の發展と共に長短各、其の特性を發揮し、遂に再び原始時代の理想に到達せんとするもの如し。中古暗黒時代に一度整々たる用兵術影を没せるも、ルネッサンスと共に新用兵術生れ、幾變遷を経て十八世紀フリードリッヒ大王に依り消耗戰略發達の頂點に達し、更に佛國革命以

大戰後列強の此の方面に關する研究は益々盛んにして、一九二六年出版 Canon の「軍隊の機械化と戰略機動」「世界大戰の戰術的觀察」に發表せられたる「一大陸上艦隊論」、又大正十四年英軍機動演習に於ては軍隊の機械化につき實際の演習を行へり。

更に此の間の實際問題より離れ前表に依り大勢を觀察せば、再び殲滅戰略に依り迅速なる決戦を行はるべき將來戰に於ては、其の核心をなすべき戰鬪は恐らく個人を單位とする立體的活動、即ち飛行機に依り行はるゝに至るべきか。歐洲大戰に於ては全健康男子戰場に臨み遺憾なく國民皆兵の實を顯はせり。而も將來空中戰行はるゝものとせば、直接攻撃に参加するものは固より歐洲大戰の如く多數ならずとするも、攻撃せらるゝ目標は老若男女山川草木を問はず、眞に全國民全國家となるべく、眞の國民戰爭と言ふべし。攻撃軍其の者の數は自然減少すべきも、其の精神に於ては在來の義務に對し更に義勇的となるべし。伊國の黒シヤツ黨の如きは其の一

端を示せるものと見るを得べきか。

即ち飛行機の發達に依り、全國民を擧げ全力を盡くして一舉に決戦を求むる殲滅戰略行はれ、在來の海軍は殆ど其の影を没し、陸軍亦現在の要塞の如きものとなり終るべし。對飛行機射撃の發達に依り依然戰爭の決は地上の武力に依るべしと論ずるもの多し。是等は凡て互に想像に過ぎざるため固より斷案を下し難さも、余は人類文化發達の大勢より見て余の所論的中すべきを信ず。在來の所謂殲滅戰略は其の武力の行動範圍頗る小なるため、自然其の攻撃の終末點に至るや消耗戰略に墮落し、眞の意義に於ける殲滅戰略を強行し得る場合は案外大ならざりしも、將來飛行機の發達に依る殲滅戰略に於ては、始めて其の目的を徹底的に達成し、人類戰爭術の最高度に達するものと言ふべし。加之、前表之を示す如く、此の場合に於ける戰爭は眞に國民の戰爭にして、而も戰鬪の單位は各人即ち戰鬪員が遺憾なく其の全能率を發揮すべきものとす。換言せば全國民の有する戰鬪能力の最大限を使用するものなり。

東西兩文明の綜合に依り最後最高の文明を創造し、人類文化の黄金時代に入るべき關門たる人類最後の争闘——日蓮の所謂「前代未聞の大闘争」——は、軍事上より視るも斯くて吾人の目前に迫りつゝあり。飛行機が全世界を自在に飛行し得るに至る時、即ち此の大闘争の開始せらるべき時にして、日本を中心とするは眞の世界戦争なり。

吾等は勿論我が足下に注意を怠るを許さず。現下の國防は全力を以て其の充實を計ると共に、眞に今や世界の最大變轉期に到達しあるを確信し、徒らに現況のみに拘泥することなく、大局を達觀して此の大變局に對する根本的準備に努力せざるべからず。事物に拘泥せざる露國當局は、既に飛行機及び毒瓦斯を敵國民に對する攻撃武器として研究に熱中しありと聞く。

四、現在に於ける日本の國防

世界大戰の襲來決して遠き未來の事に非ず。吾人は今より十分なる準備と覺悟を要するも、同時に現狀に於て其の足下に注意を要す。而して現在の國防と世界大戰との間は決して無關係のものに非ずして、現今の國防に關する勢力はやがて世界大戰の一準備となるべし。然らば現在日本は如何なる事情の下に戦争の避くべからざるに至る恐ありや。勿論支那現在の不安其の原因たるべし。

我が國情は殆ど行詰り、人口糧食其の他の重要諸問題、皆解決の途なきが如し。唯一の途は滿蒙開發の斷行にあるは輿論の認むる所なり。然るに滿蒙問題の解決に對しては支那軍閥は極力之を妨害し、又列強の嫉視を招くを覺悟せざるべからず。

滿蒙は漢民族の領土に非ずして、寧ろ其の關係我が國と密接なるものあり。民族自決を口にせんとするものは、滿蒙は滿洲人及び蒙古人のものにして滿洲人蒙古人は漢民族より寧ろ大和民族に近きことを認めざるべからず。現在の住民は漢人種を最大とするも、其の經濟的關係亦支那本部に比し我が國は遙かに密接なり。

之等歴史的及び經濟的關係を度外するも、日本の力に依りて開發せられたる滿蒙は、日本の勢力に依る治安維持に依りてのみ其の急激なる發達を續くるを得るなり。若し萬一我が勢力にして減退することあらんか、目下に於ける支那人唯一の安住地たる滿洲亦支那本部と選ぶなきに至るべし。而も米英の前には我が外交の力なきを看破せる支那人は、今や事毎に我が國の施設を妨害せんとしつゝあり。我が國の正當なる既得權擁護のため且つは支那民族のため、遂に斷乎たる處置を強制せらるゝの日あることを覺悟すべく、此の決心は單に支那のみならず歐米諸強國を共に敵とするものと思はざるべからず。

更に支那全體を觀察せんか、永く武力を蔑視せる結果、漢民族より到底眞の武力を編制し難き狀況に於て主權の確立は全然之を望む能はず。彼等の止まるを知らざる連年の戰爭は吾等の言ふ戰爭即ち武力の徹底せる運用に非ずして、消耗戰爭の最も極端なる寧ろ一種の政争に過ぎざるのみ。吾等に於て政黨の終息を豫期し得ざる

限り、支那の戰爭亦決して止むことなきものと言はざるべからず。

斯くの如き軍閥學匪政商等一部人種の利益のために、支那民衆は連續せる戰亂のために塗炭に苦しみ、良民亦遂に土匪に惡化するに至らんとす。四億の民を此の苦境より救はんと欲せば、單なる利害問題を超越して吾等の遂に蹶起せざるべからざる日、必ずしも遠しと言ふべからず。(註、支那、滿洲に關する將軍の心境の變化については「東亞聯盟」三月號「滿洲建國前夜の心境」参照)

斯くの如く支那を中心とする戰爭起らんか、單に吾等が支那人のみを相手とせば固より殲滅戰に依り迅速に之を屈するを得べしと雖も、其の他の強國の妨害を排除するための戰爭は勿論消耗戰爭の外なし。

殲滅戰爭に於ては迅速に事件を解決し、以て第三國の加入を防止すべき外交も比較的容易に成功し得べしと雖も、戰爭持久に互る消耗戰爭に於ては、狀況に依り戰爭範圍の擴大を防ぐこと難く、遂に豫期せざりし多數の敵を受くるに至るべきは、

フリードリッヒ大王の戦争、ナポレオンの對英戦争及び歐洲大戰等の最も明かに示す所なり。

故に吾人が世界大戰を準備せんと欲せば、東亞に加はり得べき凡ての武力に對する覺悟を要す。勿論外交としては多くの味方を作り敵の數を減少するに努力すべきも、軍部の計畫としては此の如きことを根據とするを許さず。即ち我が國の國防計畫は米、露及び英に對抗せざるべからず。人往々此の如きことを不可能とし、米又は露を單獨に撃破すべし等と稱するも、之、自己に有利なる如き假想の下に立論するものにして、危険甚だしきものと言ふべく絶対に排斥せざるべからざる議論なり。若し斯くの如き戦争を不可能なりとせば最初より絶対に戦を避くるに如かず。

日露戦争はモルトケ元帥時代の思想に依り、「主作戦を滿洲に導き、敵の主力を求めて遠く之を北方に撃攘し、艦隊は進んで敵の太平洋艦隊を撃破し、以て極東の制海權を獲得するに在り」なる作戦方針の下に行はれたるものなり、然るに日露戦争

はモルトケ元帥の對奥、對佛戦争の如く殲滅戦争たらしめ得ること不可能にして、如何に武力が精銳なるも結局消耗戦争の準備を要するものなり。即ちフリードリッヒ大王の所謂「遠大なる戦役諸計畫」を要せしものなり。軍事的には攻勢の終末點に關する見解を明かにすると共に、戦争計畫として財政其の他に關し遠大なる計畫を必要とせるものなり。(即ち「戦争計畫」。幸ひ戦争は露國內部の不安、我が軍事當局及び政治家の全般を見るの達觀力、及び英米の財政的援助等に依り大勝利に歸せしと雖も、若し露國に斷乎たる決意を有せしならば眞に寒心に堪へざるものありしと言ふべし。

日露戦争後、軍事界に於ては攻勢終末點の研究等相當重要視せられたり。然れ共、日露戦争の僥幸的成功と、我が國情の戦争持久に不利なるため、且つは歐洲軍事界の趨勢に盲從するの結果、我が國軍は益々速戦速決主義に重きを置けり。

歐洲大戰初期に於てすら、我が軍事界に於ては歐洲に於ける陣地戦は歐洲人の勇

氣の足らざる結果なりと判断を下し、益々猛烈なる作戦を稱揚せり。然るに大戰の末期より初めて戦争持久の止むなきを判断し、國家總動員其他之に關する議論施設逐次其の發展を見るに至れり。歐洲大戰に於ける消耗戦争は防禦威力の至大と兵力の關係上正面突破の止むなきに至りしに依れり。我が國は對支戦争以外依然消耗戦争の外なきは勿論なるも、其の原因は歐洲大戰に於ける消耗戦争と全く相異なり、ナポレオンの對英、對露戦争の如く作戦地域の關係より來れるものなり。日露戦争の經驗によれば當時の兵力は兩翼を障碍に托するに至らざりしも、土地貧弱其他の關係上、作戦は概して正面衝突にして、結局歐洲大戰に於けると同様、作戦的決戦亦行はれず、大局より見たる消耗戦争の止むなき外、作戦的にも亦歐洲大戰が消耗戦争となる先驅を爲したるものなり。

吾人の用兵術は其の後益々研究精鍊せられたり。若し滿洲の地に敵と相見ゆる如きことあらば、必ずヤタンネンベルグにまさる殲滅戦に依り、迅速なる軍事的決勝

を收めざるべからず。我等の消耗戦争は其の後猶敵が屈伏せざる場合、或る地域を領有して戦争の持久を計るものなり。

即ち我等の豫期せざるべからざる消耗戦争は、佛國等が目下準備しある戦争とは其の本質に於て大なる差異を有し（若し萬一北滿平野に於て強大なる敵武力と相對峙するが如き狀況を生ぜば、佛國式總動員に學ぶこと多かるべし）、寧ろ之をナポレオンの對英戦争に比較するを至當とす。（註、昭和三年頃蘇聯の極東に於ける武力極めて微弱なりしことを忘るべからず）徒らに歐洲直輸入の思想に捉はれ、日露戦争前後に於けると同じく誤れる基礎の下に戦争準備をなすが如きは、嚴に戒めざるべからず。將來の戦争は必ずしも日露戦争の如く倥幸を豫期すべからざるなり。

戦争の場合幾何の地域を領有するを要するやは、戦争の目的、外交上の關係及び持久のため物資との關係を顧慮して決定せざるべからず。

若し滿蒙の關係より戦争に入りたるものとせば、支那本部を占領すべきや否やは

重大問題なり。何れにせよ滿蒙を確保せざるべからざるは絶對的なり。平時より之等に關しては特に綿密なる準備をなすを要するは勿論、果して滿蒙のみを確保し、如何なる事情の下に持久を爲し得るやに就き斷案を有せざるべからず。外交其の他の關係上遂に支那本部を領有するに決せば、之に對する處置は更に雄大適切なるを要す。各方面よりの之に對する研究準備は、實に我等目下の最大業務と言はざるべからず。而して之がためにも行はるべき滿蒙の經營が至大なる關係を有することに注意を要す。而して此の持久戰爭に於て最も大なる關係を有するものは、彼の尨大なる地域の治安維持の外、我が本土及び占領地の經濟とす。即ち戰爭に依る各交通路の遮斷に依り、果して我が國民及び占領地住民は大なる生活の脅威を受けず、よく我が力に依り其の安寧を維持し得ざるべからず。此の如き大問題は勿論政府當局及び學者等協同し、平時より十分研究準備を要するものにして、要は太平洋交通、印度洋交通、露西亞との交通、支那との交通中、若干若しくは全部遮斷せられたる

各種の場合に於て、經濟狀態は如何なる狀態を呈すべきや、之に對し如何に對處するが最も合理的なりや等を考へ、且つ各場合交互に轉化する場合をも考察し、之に依り遂に平時より改革を要する緊要缺くべからざる要件は、萬難を排して速かに斷行を期せざるべからず。

戰爭と共に、年に九億圓の輸出をなしある生糸の輸出杜絶せば、既に日本は戰爭を爲す能はずとは米國人の考ふる所なり。其の他幾多の困難群り來るべし。巧みに此の困難を排除するは眞に大事業中の大事業なり。若し凡ゆる方法を研究し遂に戰爭持久の望みなきものとせば、遺憾ながら日本は遂に白人種の横暴に對し正義を守る能はざるなり。然れ共吾人は決して此の如かるべしと信ぜざるなり。一日も速かに國家の力を舉げて此の計畫を確立せざるべからず。歐米の先進國に對し商工業立國の至難なる狀況に在る日本は、却つて此の封鎖に依りナポレオンが英國の進歩せる産業に對せる如く奮闘を續け、遂にナポレオンの達せざりし大目的を達成し得べ

きを信ず。

持久戦争に於て特に重要なるは財政なり。フリードリッヒ大王の戦争、ナポレオンの對英戦争は、如何に彼等が財政に至大の力を用ひ且つ其の天才を發揮せるやを見るべし。若し貧弱なる我が國が百萬の新式軍隊を出征せしめ、莫大の軍需品を補給するものとせば、年に費す所幾何ぞ、忽ち破産の運命を免るゝ能はざるべし。

(註、將軍心境の變化については新正堂版「世界最終戰論」一八六頁參照)

我等の戦争はナポレオンの爲したるが如く、戦争に依り戦争を養ふを本旨とせざるべからず。即ち占領地の徵稅、物資、兵器に依り出征軍は自活するを要す。支那軍閥を掃蕩し土匪一掃して其の治安を維持せば、我が精銳にして廉潔なる軍隊は忽ち土民の信服を得て、優に以上の目的を達するを得べし。

前記我が國民及び占領地住民の生活に關する經濟は政府當局の準備を主とすべきも、此の出征軍自活的の給養に關する事項は、占領地行政の最も重大なる事件とし

て軍部は特に平時の調査研究を十分にし、占領地が果して幾何の軍隊を養ひ得べきか、其の治安維持に幾何を要すべきや等につき具體的成案を要するは勿論なり。此の持久戦争に必要とする陸上武力次の如し。

- 一、占領地治安維持の兵力
- 二、外敵の來襲に對する兵力
 - イ、滿蒙に來るべき露國の兵力に對するもの
 - ロ、制海權を失ひたる時支那に上陸すべき兵力に對するもの
 - ハ、萬一の場合本土を守備すべきもの
- 三、フィリッピン、香港等奪取に要する兵力

海上武力は持久戰のため最も必要にして、なるべく廣く制海權を掌握すること極めて大切なり。然れども殲滅戦争を行ひ能はざる我が國に於ては、一部論者の言ふ如く海軍武力を絶對とし次で陸上兵力を整備すべしとの論は正當ならず。戦争持久

のため制海權の範圍及び大陸占領地の必要を考へ、公平に兩兵力の比率を定めざるべからず。而して萬一海戰不利にして大陸との交通危殆に陥る時と雖も、内國及び出征軍は各別に自活し、斷乎として戰爭を繼續するの覺悟を要す。自彊將命をとくなへながら、艦隊の敗北、制海權の喪失を以て全戰爭の敗北となすが如きは、許すべからざる迷想と言はざるべからず。

歐洲大戰前の如き狀況に在りては、上記の如き戰爭は至難事中之至難事なりしこと勿論なり。即ち露國が百萬の精兵に對し滿洲に於て對戰するため、我が國は全力を盡くさざるべからず。而して此の大軍は到底戰地に於て自活すべくもあらず。此の間、海に於て米英を敵とせんか戰爭の決忽ち定まるものと言ふべし。然るに今や露國は北滿洲より退き、北滿を失へる露國が興安嶺西方の沙漠を越え又は遠く沿海州を迂回して大兵を進むるは甚だ困難なるのみならず、露國內外の事情亦恐らく戰爭に十分の兵力を用ふる能はざるべし。此の如き事情の下に上記の如き大戰爭は決

して無謀ならざるを信ず。

但し此の戰爭のためには各方面廣汎なる大準備、大計畫を要すること前述せるが如し。而して此の如き消耗戰爭は武力のみを以て解決し難く、政治戰略の關係最も緊密なるを要す。即ち軍人はよく政治の大綱を知り、政治家は亦軍事の大勢に通ぜざるべからず。英國の如き國防大學の設立は目下の一大急務なり。

特に最も重大なるは國民思想の統一に在り。又國民をして支那の事情を理解せしめ、「對支絶對不干涉」の如きにより支那が決して統一すべきものに非ず。徒らに可憐なる支那四億の民衆をして一部職業政治家の喰物となし、遂に收拾すべからざるに至るべきを了解せしめざるべからず。

今や西洋思想の病毒甚だしく國民の間に侵入し、マルクス主義は殆ど若き人々を征伏せんとするが如き形勢なり。而も半面、日本民族固有の精神は深く民族の心底に潜在し、又一部、眞日本國體の大精神に目醒めつゝあり。

日本國體の大精神を了解せしむるは目下國家最大の大事業なり。而も國民をして徹底的に此處に至らしむるは頗る難事なり。余は形勢黙々の裡に切迫しつゝある支那問題を中心とする我が國の消耗戦争は、此の大事業を完成せざるに先立ちて勃發するに非ざるやを懼るゝものなり。

然れ共、又一方より考ふれば此の戦争は遂に國民の奮起を促し、爲に全國民の自覺、思想の統一を來すべきには非ざるか。即ち近く來るべき消耗戦争に依り、日本は先づ國民的に日本國體の大精神に統一せしめ、且つ戦争に依り我が商工業に十分なる根底を養ひ、戦争に依り却つて國家經濟の急激なる進歩を來し、以て來るべき殲滅戦争たる世界大戦、所謂「前代未聞の大鬭諍」を準備し、最後的大決戰的戦争に依り遂に世界の強敵を屈伏して、日本國體の大精神を世界の全人類に徹底せしめ、日本天皇を中心とする大平和の時代に入るものなるを確信して疑はざるものなり。

五、日本將來の國防

吾等の最大目標たる世界戦争が刻々切迫しつゝあることは再三論じたる所なり。之に對する根本準備の重要なこと論を俟たず。今、之に關する二三の意見を述べん。

一、最も重要な攻撃兵器、殊に飛行機の研究に全力を傾注すること。徒らに飛行機數を云々するよりも、寧ろ目下は根本的設備に力を用ふべく、又目下の狀況上徒らに民間營利事業を奨励するよりも官業能力の主力を先づ之に用ふるを有利とすべし。

二、次に防禦能力増進の爲には

イ、國民に自覺を與ふること最も緊要なり。即ち國民全體として強固なる意志なくんば、到底將來戰の慘狀に堪え難きなり。

ロ、團體的訓練の必要

敵機の襲來に當り爆撃瓦斯攻撃等に對し我が國民の缺點たる團體的訓練を要す。

ハ、木材耐火の研究

世人動もすれば木造家屋の不利を説く。然れ共余は之に同ざる能はず。將來の爆撃に對しては煉瓦、コンクリート、石造等は却つて慘害大なるに非ずや。數十層の大建築が爆撃せらるゝ狀況を想像せば直ちに之を了解するを得べし。バビロンの滅亡、カルタゴの最後も到底將來戰の慘狀に比すべくもあらざるなり。之に對し日本の如き文明的設備分散し且つ木造建築大部分を占むるは、却つて損害大ならざるべく、唯木材の耐火に就きては十分の研究を拂はざるべからず。之單に國防上のみならず、國家經濟上極めて有意義なり。貧乏なる日本國民が徒らに都市の外見のみを飾り、之に巨萬の資を投じ淺薄極まる洋式建築をなすは一考を要す。宜しく當分バラック式にて満足し木材の耐火を完成し、防火區

域に依り耐火熱度を制定すべし。「有るか無きか不明なる戰爭を基準として復興計畫」(註、大震災後の東京復興のことなり)を立つる能はずとは屢々耳にする議論なるも、然らば反問せん、有るか無きか不明なる地震に對し徒らに顧慮するは如何と。地震は百年に一回とせば、

次の大戦争は到底百年に待つ能はざるなり。

最後に一言すべきことは、軍事當局として特に重大なるは、此の重大なる變轉期に於て適時其の國防機關の大變革を行ひ得べき準備につき常に缺くる所なきを要すべく、之が根本は將校の精神的準備にある點にあり。

支那事變の解決

目次

- 一、持久戦争
- 一、決戦々争と持久戦争
- 二、持久戦争となる原因
 - 1 防禦威力の強大
 - 2 国土の廣大
- 二、事變の解決
 - 一、短期戦争か長期戦争か
 - 二、戦争手段
 - 1 武力戦
 - 2 外交戦
 - 3 思想戦
 - (イ) 新しい時代精神の把握
 - (ロ) 中國人の東亞聯盟運動に對する信頼
 - 4 經濟戦

一、持久戦争

一、決戦々争と持久戦争

戦争の本領は、武力を以て迅速果敢に敵を打倒して、これを屈服するにある。然し對手を持つてゐることであるから、必ずしも常にさうはゆかない。武力だけで簡単に敵を屈服し得ない場合には、やむなく武力以外のあらゆる手段をも併用して、敵の抵抗意思の挫折を企圖するのである。主として武力を以て迅速に戦争目的を達成し得る戦争を決戦々争と言ひ、然らざる戦争を持久戦争と名づける。

この頃世の中には頻りと總力戦と言ふ言葉が使用せられる。然し戦争は古來常に總力戦である。その當時の總力を用ゐて戦はれたのである。今日特に總力戦と言はれるのは、文明の急速なる發達によつて、國の總力が最もよく戦争のために集中使

用し得るやうになつたことも關係があるが、特に考へなければならぬのは、現在多く持久戦争が行はれることである。

第一次歐洲大戦までは、戦争は武力によつて比較的迅速にかたがついた。即ち、決戦々争が多く行はれたのに、今日は持久戦争が多く行はれる。持久戦争において、はじめて武力以外のあらゆる力が戦争に集中使用し得る餘裕を得るのである。

それ故に總力戦は斷じて戦争の理想的形態ではない。將來の決戦々争——私のいふ最終戦争——は決戦々争の最も徹底したものである。この最終戦争においては、外交であるとか、經濟であるとか、乃至は思想などといふものは、殆ど作用し得るまでもない程、速かに武力によつて勝敗が決せられるのである。

二、持久戦争となる原因

戦争の理想的形態である決戦々争が行はれ得ないといふことは、武力が敵の心臓

部に達し得ないといふことである。即ち、持久戦争になるところの原因は大別して次の二つである。

1 防禦威力の強大

戦争における强者は常に敵を攻撃してゆく、そして敵に決戦々争を強制せんとするのである。ところが、その時の戦争手段が甚だしく防禦に有利な場合には、敵の防禦陣地を突破することが出来ずして、攻者の武力が敵の中樞部に達し得ず、やむなく持久戦争になる。

フランス革命の時、ナポレオンの現出によつて、それまでの持久戦争が決戦々争へ急轉回し、爾後、戦争は極めて短期間に終るものと考へられて、第一次歐洲大戦を迎へたのである。然るに近世における火器、特に機關銃の發達が防禦を非常に有利にした。一挺の機關銃が巧みに配置されてゐる時は、歩兵の一箇大隊位を機關銃一挺で喰ひ止めることも出来る。敵の正面の突破は非常に困難になつて來た。

また一方フランス革命以來の國民皆兵が逐次徹底して、兵力が非常に増加した。殊に人口稠密である西洋諸國においては、國境線の長さとその兵力の關係上、徹底的に國境線を防衛し得る狀況になつた。それがために正面の突破も困難であり、また敵を迂回することも出来なくなる。

かくの如くして第一次歐洲大戰では全く世人の豫想に反して四年半の持久戦争になつたのである。

今次の第二次歐洲大戰では、この形勢が少しく變つて來てゐる。フランスは瞬間的にドイツにやられた。ドイツは今日まで見なかつた理想的の決戦々争を歐洲における第一の強大陸軍國であるフランスに強制し得た。これは主として全體主義ドイツと、自由主義國フランスとの、國家能率の大きな差から生じたのである。然しながら兵器が飛躍的に進歩しつゝあることも看過することは出来ない。第一次歐洲大戰では主として大砲と機關銃の戦争であり、機關銃は特に防禦に適してゐる。大砲

で完全に敵を撃破することは困難であり、大砲は防禦にも非常な利益を與へる。ところが今次の戦争ではすでに大砲の時代から戦車・飛行機の時代になりつゝある。戦車・飛行機は防禦的の兵器ではない。第二次歐洲大戰が第一次歐洲大戰と戦争の性格に相違を生じつゝあるのはその結果である。

ナポレオンは十年に亙るイギリスとの長期戦争を餘儀なくせられた。彼は大陸における國家に對して極めて短期間に決戦々争を強制したのであるが、海を距てたイギリスにはそれが不可能で持久戦争となつた。イギリスはドーヴァー海峡といふ恐るべき大水濠の掩護によつて、ナポレオンの攻撃から免れたのである。今日イギリスのナチス・ドイツに對する頑強なる抵抗も、このドーヴァー海峡に依存してゐる。それ故にイギリスがナポレオンにも、またヒットラーにも、持久戦争を餘儀なくせしめたのは、矢張りこゝにいふ防禦威力の強大といふことから生じてゐると見るべきである。

2 國土の廣大

攻者の威力が敵の防禦線を突破し得る程十分な力があつても、攻者の行動が種々の掣肘を受けて、敵國の心臓部が、攻者國軍の行動半徑外にある時には、自然に持久戦争となる。

ナポレオンはロシアの軍隊を簡単に撃破し得た。長驅モスコイまで侵入したのであるが、これは當時のナポレオン軍隊の堅實なる行動半徑を越えた作戦であつたために、そこに無理があつた。従つてナポレオン軍の後方が危険となり、遂にモスコイ退却の慘劇を演じて、大ナポレオン覇業の没落を來したのである。ロシアを護つた第一の力は、ロシアの武力ではなくして、その廣大なる國土であつた。今次事變における蔣介石の抗戦も、同じく中國の廣大なる土地に依存してゐる。

第一次歐洲大戰において、西方戦場では獨佛兩軍の戦力が相伯仲して、がつちり四つに組んだのであつたが、東方戦場は多少趣きを異にしてゐた。ロシアの武力と

ドイツの武力との間には相當大きな開きがあり、ドイツ軍の一撃はよく敵線を突破し得た。殊に歐露方面では人口が西歐の如く稠密でないために、戦線の正面幅と兵力の比率が、西方戦場に較べて遙かに兵數に不利であつた。かういふ關係でドイツ軍一度起せば、よく東方戦線の突破を行つたのであるが、矢張り土地の廣大がロシアを護つてゐたのである。

目下獨ソの間には決戦が展開されつゝあるが、その詳細なる事情は新聞ニュース以外を入手し得ない私には不明であるけれども、私の直観するところによれば、ソ聯の武力も革命以後二十年の鍛錬によつて相當のものである。しかしソ聯の軍人には未だ第一次歐洲大戰において、常にドイツ軍に破られた精神的の恐怖心が清算されてゐないし、今次大戰開始以來の赫々たる武勳に對するドイツ軍の自信力の前には、ソ聯軍は一步を譲る形にあるものと見ることが出来る。獨ソ間の國境は一千五百キロを超えてゐる。それに對してソ聯が準備してゐた兵力は、新聞などで傳へる

ところによれば、大體百五十箇師團見當でないかと思ふ。而もこの師團は恐らく完全には動員されてゐなかつたのではなからうか、後方の豫備隊をも通算して一師團十キロの防禦正面は相當に無理がある。殊にドイツが新しく東方國境に新ジグフリード陣地を構築したに對して、ソ聯も防禦工事には努力したのであるが工業力の劣るソ聯は十分堅固なものを完成して居なかつたらしい。ソ聯軍に眞の名將がゐたならば、恐らく戦争開始とともに、迅速に主力をスターリン陣地に後退したであらう。ドイツ・ニュースの傳へる如く、準備不十分なソ聯軍がスターリン陣地の前方で大打撃を受けてしまつたといふことは、獨ソ戦争の運命に大きな影響を與へるものと考へられる。スターリン陣地が容易に突破せられたのも、この緒戦における大打撃の結果であると見なければならぬ。かくてソ聯はその防禦威力によつて戦争を持久することは困難になり、再び土地の廣大によつて抵抗することを餘儀なくせられるであらう。

然し今日のドイツ軍は、第一次歐洲大戰の時と違つて、作戰兵力の重點が大砲と馬の時代から戦車と自動車の時代に變つてゐるし、空軍の威力は第一次歐洲大戰に比べて比較にならない程飛躍的に進歩をしてゐる。それ故に、ソ聯の土地の廣さがどれだけの抵抗力をドイツに對して示すかといふことは、戦争學の見地から見ても極めて興味ある問題である。ヒットラーの對英戦争は大體ナポレオンのそれと似た経過をとつて來たが、ナポレオンを亡ぼしたロシア作戰を回顧して、ヒットラーの對ソ作戰を徒らに危懼するのは必ずしも當を得てゐない。

二、事變の解決

一、短期戦争か長期戦争か

日本の武力が中國の武力に對して壓倒的威力をもつてゐることは、事變の経過を

待たなくとも事變前から何人も疑はないところであつた。

然し中國の土地は頗る廣大であるのみならず、交通状態、殊に中支以南における陸上交通状態は、極めて不良である。近代裝備をもつてする軍隊の行動には適しない。従つて日本軍の武力の行動半径は大きな掣肘を受ける。また中國には古くから高い文化があるのであるが、その物質生活は極めて原始的であり、各地方は夫々高度の自給自足が可能である。

これらのことが持久戦争、即ち長期戦争に極めて有利なる條件をなしてゐる。それ故に今次事變が持久戦争となるか、或は日本が決戦々争を強制し得るかと言ふことは、主として中國の抵抗意思の如何によるのである。

中國が未だ民族國家としての自覺が不十分な時代には、日本の一喝によつて直ちに屈服したのである。濟南事件頃までは大體その傾向にあつたが、その後中國は急速に進歩しつゝあつたのである。然るに日本は日清戦争以後中國の能力を輕視して

ゐた情性によつて、この中國の新建設運動を正當に判断し得なかつた傾きがあることは否定出來ない。その結果、今次事變においても濟南事件までの如く一撃を加へたならば、敵は屈服するものと多くの人々は考へてゐたらしい。こゝに日本の判断に若干の誤算があつたことは認めなければならぬ。中國の抵抗意思が意外に強かつたことは、その國土の廣大を利用して、遂に日本に對する四年以上の持久戦争を行ひ得る結果となつたのである。

二、戦争手段

事變が持久戦争となつたのであるから、總力戦として、あらゆる力を集中して重慶政府の抵抗意思を挫折せしめなければならぬ。その内特に重要な武力戦・思想戦・經濟戦・外交戦に就いて研究を進めよう。

1 武力戦

防禦威力が強大なために持久戦争となつた場合においては、武力戦の價値は特に大きい。武力戦のバランスが破れて戦線が突破せられたならば、戦争の運命がそれによつて決せられるからである。

第一次歐洲大戦の場合、西方戦場においては獨佛兩軍の強大なる武力が四年以上に亘つて鏖競合ひをやつてゐたのである。一九一八年春からのドイツの大攻勢が逐次力を失ひ、七月フランス軍の反撃によつて遂に攻守所を異にし、ドイツ軍の戦況の不利が急速に國內の情勢を悪化せしめ、國內情勢の悪化はドイツ軍を崩壊的狀態に導いてしまつた。フランス側の人々は第一次歐洲大戦はフランス武力の勝利であつたと唱導するし、ドイツ側は武力では負けたのではない、我々は飢餓のために屈服したのであると言つてゐる。その何れにも相當の言分がある。ドイツは飢餓のために敗れたが、然しフランス武力の最後の優勢がドイツを徹底的に潰滅せしめた力でもあつた。それは兎に角としてあの持久戦争においては、特に武力が非常に高い

位置を占めてゐたことが明かである。

國土の廣大による持久戦争においては、武力戦の重大さが、防禦威力の強大による持久戦争に比べて、多くの場合において低いと考へられる。それでも武力戦は依然戦争遂行の最も重要な手段であることはいふまでもない。敵の心臓部を衝いて一舉に戦争の運命を決することは出来ないが、然し好機を捉へて敵の手足等の或る點に一大衝撃を與へて敵を震駭せしめ、それに乘じて巧みな政略と相俟つて、和平の動機をつかまへることが可能な場合が尠くない。

若しも武力戦でかゝる有利な機會を捉へることが出来ないやうな狀況であつても、武力戦は思想戦・經濟戦・外交戦の支柱となつて、連續せる壓迫によつて敵の戦意を挫き、敵を屈服するやうに努力しなければならぬ。

今次事變においても日本の空軍は、連續重慶を爆撃してゐる。動もすれば世間ではその價値を云々するものもあるけれども、この連續せる爆撃が、重慶政府の士氣

を沮喪せしめるのに重大なる價值あることは斷じて否定出來ない。

戦争において奇襲の價值は極めて大きい。敵を奇襲しようとするならば、自國民をも奇襲しなければならぬ。今次の歐洲大戰におけるドイツ軍の赫々たる戦捷は、奇襲に負ふところが最も多い。殊に海を越えての、あの困難なるノルウェー攻略の如きは、世界の戦史でも殆ど未曾有の素晴らしい成功といふべきである。その成功の裏には嚴密なる機密の保持があつたのである。

輿論に追従する作戦は、斷じて奇功を奏することが出來ない。今次支那事變において、この點に關して私は甚だ遺憾に堪えないと思ふ。「漢口攻略すべし」「廣東攻略すべし」等の立看板が市中に溢れ、あらゆる講演場において作戦が論議せられた。これが戦争に與へた影響については、後世史家の嚴密なる検討が加へられるものと信ずる。

抑、國政に關しては臣民翼贊の道をお開きになつたのであるが、統帥に關しては

國民の論議は斷じてお許しになつてゐないのであつて、統帥に就いて輿論に訴へるのは統帥權の干犯である。天皇機關説を排撃し、國體擁護を絶叫する日本の愛國主義者が、この點に關して深甚なる反省をなすことを要望する次第である。

2 外交戦

國防國家は戦争を豫想しての國家である。國防國家の外交は密接に統帥と關聯してゐる。即ち、統帥に近き、統帥に準ずる秘密の保持が肝要となつて來る。外交についても、國防國家の時代においては國民はよろしく政府に一任すべきである。東亞聯盟協會の昭和維新論に外交について次の如く述べてある。

「東亞聯盟内相互間に於ては、至誠一貫、外交術策存在の餘地はない。對歐對米外交に就いてはあくまで彈力ある立場を維持し、東亞聯盟發展の見地より圓轉自由の進退を持續すべきである。」

東亞の大同は昭和維新の核心問題である。東亞聯盟諸國間の關係は、所謂外交の

範圍ではない。至誠一貫、事に當らなければならぬ。それは内政と同じく國民の輿論によつて、國民の理解の上に立て、行はなければならぬ。對歐米外交も勿論道義外交を我々は熱望する。然し遺憾ながら歐米霸道主義者の力が餘りに強く、且つ彼等が總ゆる術策を施す今日、日本としても相當の駈引外交を餘儀なくせられる。

至誠一貫、眞心を以て進むべきものには秘密がない。駈引によらなければならぬものは、秘密を嚴守しなければならない。この點においても、今次事變以來日本國民のつた態度について、私は深い反省を要望せざるを得ない。所謂國民外交は自由主義時代にのみ合理的である。盟邦ナチス・ドイツの外交を見よ。二年前英佛との開戦避くべからずと見たヒットラー總統は、不俱戴天の敵スターリンと不可侵條約を締結した。若しも彼がこれを輿論に訴へたならば、かゝることは絶対に不可能であつたと思はれる。而して西歐方面やバルカン方面を片附けたヒットラーは今

回斷然ソビエト聯邦に向つて宣戦を布告した。これも亦何ら輿論に關係はない。

今日支那事變處理のための外交問題として最も重要視されるところの援蔣ルートの問題がある。英・米・ソの援蔣行爲が中國の士氣に影響を與へてゐる點は、固より否定出來ない。しかし彼等の援蔣能力に就いては、我々は冷靜なる考察を必要とする。新疆・甘肅の曠野を経てソ聯から重慶への物資輸送、乃至はビルマから滇湏ルートを經ての援助は決して大きな數量とは考へられない。

外交戰固より我々としてはその價值を輕視しないのであるが、今日多くの人が騒ぐだけの力があるかどうかについては大きな疑問がある。

最近でも動もすれば英米との話合によつて重慶政府と和平を試みたらよいではないかと主張するものがあるやに風評を聞く。私はかくの如きことは斷じて事實とは思はないけれども、もしかゝる主張をなすものがあつたならば、それは甚だしき錯覺である。恐らく蔣介石は英米からの壓迫があつても日本とは今日和平を結ばな

いであらう。蒋介石をして國民大衆を把握せしめてゐるのは「抗日」である。英米の壓迫によつて日本と妥協したならば、彼の支配力は大きな動搖を免れないであらう。假に外國の力によつて和平が成立したとすれば、外國の力の變動によつて、また形勢が逆轉するものと考へなければならぬ。従つて東亞永遠の安定は期することが出来ない。更に考慮しなければならぬのは、現状の儘で和平が成立して、蒋介石が失脚したとすれば、中國は恐らく戰國時代にも匹敵する大混亂に陥るのではないかと想像されることである。支那事變は斷じて我々の實力を以て根本的に解決することが必要である。

3 思想戰

蒋介石抗戰の最も重要な要素は、抗日宣傳による國民の總動員である。宣傳下手の日本は、遺憾ながら思想戰においては甚だしく立ち遅れの姿である。

この困難なる状況の下に昨年四月二十九日派遣軍總司令部では「派遣軍將兵に

告ぐ」といふ小冊子の中に事變解決の目標を、滿洲建國の精神を想ひ起して、道義東亞聯盟の結成にあると主張した。聖戰の目的である東亞新秩序の説明として近衛聲明もまだ中國に對し思想戰のため十分な力を發揮出来なかつたのに、この東亞聯盟思想がはじめて重慶に對して思想戰を可能ならしめるに至つた。派遣軍思想戰の大成功といはねばならぬ。第一戰に従軍した將兵のみならず、宣撫班員の體驗を聽くと、東亞聯盟の思想は非常に良く中國の大衆にも受け容れられるとのことである。新民會宣撫班員の第一線における活動者には、東亞聯盟運動に熱中してゐるものが多い。

私の知つてゐる軍醫が南京に勤務してゐる。その軍醫は東亞聯盟の熱心なる信奉者で、東亞聯盟に関する書籍を病院に寄附して白衣の勇士に讀ましてゐるが、勇士からは常に多くの感謝の言葉を受けてゐるとのことである。或る日の眞夜中に電話が掛つて來た。患者からの電話である。その患者の話によれば、今夜偶然東亞聯盟

に關する書物を讀んで、長い間の悩みが一瞬にして吹っ飛んでしまつた、戦友の犠牲の重大なる意義が始めてはつきりした、嬉くて嬉くてどうしても寝られない、その本を見ると寄贈者のあなたのお名前が書かれてあつたので、とうとう我慢が出来ず御迷惑とは思ひながらも、こんな時刻にお電話するこの私の氣持をどうぞお汲取りになつてお許しを願ひたい」と泣き聲で話をされたので、その軍醫も感激して涙を以て返事したとのことであつた。

汪精衛政權の最も悩みとするところは、重慶の抗日建國の主張に對して、和平建國の理論がどうしても民衆に迫力のないことであつた。然るに昨年の夏頃から東亞聯盟思想を彼等の方針として採用することによつて、彼等は始めて重慶に對して思想戰の勝利の見込が十分だと稱してゐる。東亞聯盟思想のみが重慶に對して思想攻勢を可能ならしめたのである。日本の總ゆる聲明に對して常に反駁を怠らない重慶政府は、「派遣軍將兵に告ぐ」の主張する事變解決の目標に對しては沈黙を守つたの

である。

その後南京において東亞聯盟中國同志會や中國總會の發會式が極めて盛大に行はれた場合にも、汪精衛政權に對して常に非難を集中してゐる重慶側は、概ね沈黙の態度をとつたのである。これは東亞聯盟思想が中國大衆に相當の影響を與へてゐるために、重慶側が東亞聯盟を非難することは、思想戰として利益でないといふ見地からとつてゐる態度ではなからうか。

最近南京から來た人の話によれば、重慶の方から南京に向つて、「お前らは東亞聯盟というてをるが、日本政府は東亞聯盟の運動を彈壓してゐるのではないか」と放送してをつたとのことである。

若しもそれが事實とすれば、重慶政府自體が東亞聯盟思想に對して恐怖心を持つてゐる證左と見なければならぬ。いづれにせよ、日本人が考へてゐる以上に、東亞聯盟の思想は、中國人に急速なる影響を與へ、今日まで殆ど光明を認めることが

出来なかつた思想戦に、大きな轉機を劃せんとしつゝある。

かくの如く東亞聯盟の思想が迫力をもつてゐる理由は何であらうか。私は次の二つのことを挙げたいと思ふ。

(イ) 新しい時代精神の把握

滿洲事變以來日本の宣傳戦は完全に失敗してゐる。確かに宣傳下手である。だが宣傳下手は寧ろ私は日本人の名譽と考へる。この世界的誤解の根柢には、宣傳の上手下手よりも、もつと大事なことがある。それは我々の信念の問題である。

滿洲事變當時、所謂國民使節がアメリカに渡つて努力した。然し彼等のしたことを見るに、すべて消極的釋明に過ぎない。辯解すればする程惡結果を生むことは當然ではないか。

私は滿洲國で或る外國新聞記者から質問を受けた時、東亞聯盟の思想によつて、我々は新しい道義東亞の建設に向つて邁進するんだといふことを堂々と主張した。

ところが、その新聞記者は驚いて「それは素晴らしいではないか、それなら解る、何故日本はさういふ宣傳をやらないか」といつたことがあつた。

滿洲國のワルソー駐在の總領事であつた朴錫胤氏は、アメリカから來た女教員團に對して東亞聯盟のことを説いた。ところが、アメリカへ歸つた後の報告に、「新京に於いて我々は不思議なものにぶつかつた」と、この女教員團が驚異の目を以て聽いたその時のことを書いてゐることである。

明治維新は日本の維新であつたが、我々の信ずるところによれば、昭和維新は東亞の維新である。次の最終戦争が世界の維新でなければならぬ。明治維新に於いては、封建日本が 天皇を中心と仰ぎ奉るところの統一せる民族國家になつたのである。昭和維新は 天皇を中心と仰ぐ東亞の大同でなければならぬ。これなくしては東亞が長く米英の支配下に沈淪しなければならぬのである。この感激、この時代認識より來たる自信と感激とによつて、はじめて我々の宣傳に驚くべき威力を

與へるのである。

昭和維新が唱導せられ、革新の必要が痛感されながら、未だ東亞聯盟思想以外にその的を射てゐるものは見當らない。この意味において、東亞聯盟運動が益々廣く、東亞諸民族に大きな感激を與へることが、當然であると私は信ずるのである。

(ロ) 中國人の東亞聯盟運動に對する信賴

大きな革新は單なる理論闘争ではなく、實踐の上に立たなければならぬ。東亞聯盟は滿洲建國の精神である民族協和の自然の發展として生れ、十ヶ年の不斷の運動が續けられて今日に及んだのである。

革新時代の新しい精神は、容易に世に容れられないのが當然である。東亞聯盟運動もこの例に漏れなかつた。相當の誤解をも受け、若干の迫害をも體驗して來てゐる。しかしどのやうなことがあつても、滿洲國に存在してゐる東亞聯盟運動者は少しもこの信念をまげることなく、堂々闘つて來た。この態度に對する他民族の信賴

が今日東亞聯盟運動を急速に發展せしめてゐる原動力である。

4 經濟戰

武力戰が赫々たる戰果を挙げ、思想戰もまた總軍司令官によつて東亞聯盟運動が思想戰の重要方策として採用せられた今日は、すでに前途に光明を認められたのであるが、遺憾ながら經濟戰は全く立ち遅れてゐるらしい。私は經濟のことに關しては、特にづぶの素人である。私が經濟について、かれこれいふといふことは、嚴に慎むべきだと思ひながら、敢へて愚見を述べることにする。

蔣介石政權にとつては、外貨獲得のために、タングステン・桐油・アンチモニー・錫等が最も重要である。かくの如き物資が租界乃至は香港に集つて海外に輸出せられてゐる。日本が現に天津・青島・上海・廣東などの中國の經濟的要地を殆ど占めてゐるが、この經濟的要地を占めながら、而も中國に産する重要物資が多く敵地に流れてしまふといふことは、經濟戰が有利に展開されてゐない何よりの證據である。

また北支の治安すらも華々しい回復を示してゐない。地方の政治中心である縣城は、殆ど日本軍がこれを占領してゐる。そしてその周圍に潜行的にやつて來る共產軍と對抗してゐる。あらゆる方面から考へても、縣城を占領してゐる日本の勝利になるべき筈である。ところが、そこにも亦經濟戰においては共產軍に有利な狀況になつてゐるらしい。縣城の物資は共產地區である農村の方に流出して、逆に農村の生産品は仲々日本側の手に入つて來ない。治安の良くならないのは、共產主義の思想ではない。中國の農民には共產主義の思想などは解る譯はない。共產黨の宣傳よりも遙かに大事なことは、日本軍の支配下よりも共產黨の勢力範圍が經濟的により良き状態にあるといふことである。

斯くの如く武力を以て要點を押へながら、經濟戰においても立ち遅れてゐる原因に就いては、通貨の問題が非常に大きな作用をなしてゐるのは衆知のことである。また強權統制——日本國內において日本人のこの熱烈な愛國心の下でさへ急速に立派

な成果を求めることが困難である。——が戰地においては物資を敵地に流すところの大きな原因と見られる。

このことに關聯して不良日本人が、國家の利益も忘れて、個人の利益のために中國人の信賴を損つてゐることは、眞に痛憾に堪えない。然し靜かに考へて見れば、日本人の道德を急速に轉換するといふことは、殆ど不可能に近い。不良日本人の取締は恐らく非常に困難なことであらう。然し私は、不良日本人以上の問題として、時代認識の缺如があると信ずる。

今日までは、日本も世界的資本主義經濟の影響下にあつて、滿洲國や中國には、餘り近代的大工業を勃興せしめないやうにして、日本の高度の生産設備によつてかゝる國々から利益を收めようとする植民地的經濟政策が、やはり自然に日本人の頭の中を支配してゐたことは否定出來ない。ところが今日は、全く時代が變つてしまつたのである。圓ブロック内においてはどこに物が出來やうが、即ち、朝鮮

からでも、滿洲國からでも、中國からでも、一向差支へない。文字通りの適地適業主義が採用せられて、東亞經濟の最大能力を發揮して行かねばならない。それがためには東亞諸民族を自主的積極的に活動せしめることが最も大切である。このことが理解できれば自然に經濟戰に急轉換を來すものと考へる。

經濟戰の立ち遅れは、中國人を巧みに、十分に活動せしめたならば、政治的に甚だ不利益なところまで追ひ詰められてゐるところの重慶政府や共產軍に對して、我々は徹底せる經濟戰の勝利を獲得し得るものと信ずるものである。

また今日の滿洲國の建設には、恐らく年に二百萬人近くの勞働者を北支から提供せしめなくてはならないのではないか。ところが北支から來る苦力が甚だ少いらしい。この間私の知人が北支に行つて青幫の有力者に會つた際、その人は「どうも北支は勞働力が餘つて困つてゐるが、何故滿洲國はもちつと澤山勞働者を使つてくれないのか」といふ不平をこぼしてゐたさうである。片一方では勞働者が欲しい。片

一方は行きたいといふ、かくの如き状態で、滿洲國に勞働者が來ないといふのは何と不思議ではないか。然しこの秘密も簡單である。時代を辨へないためである。

かくの如く考へれば、經濟戰に勝利する秘訣は、各民族の能率を十分に擧げ、全東亞民族の最大能力を發揮し得る方法、即ち東亞聯盟思想の覺醒以外に道はないのである。日本人の道德を急に高めるといふことは、むづかしいことであるが、考へ方の變化は指導宜しきを得れば、直ぐにでも出来る。日本人が東亞聯盟の時代精神を認識して、中國人を百パーセント働かしたならば、經濟戰は忽ち好轉するものと信ずる。

目下問題になつてゐる南京政府の強化も、その要點はこの一點につきてゐる。素より戰地の全責任は派遣軍總司令官の一手に掌握せられてゐるところである。然し武力戰以外の思想戰・經濟戰は、元來軍人の仕事ではない。如何に卓越した總軍司令官と雖も、軍人の考へを以てかくの如きことを適切に指導することは、殆ど

不可能に近い。よく時代を直観した國民の思想戦・經濟戦に對する信念の基礎の上に、始めて總軍司令官がこれらを指揮出来るものといはねばならない。武力戦では輝しき戦果を擧げてゐる。國民は更にこの戦争に最後の止めを制するために思想戦・經濟戦の基礎を速かに確立しなければならぬ。

思想戦・經濟戦の建て直しを斷乎として決行したならば、昭和維新は必然的に進行する。かくしてこそ新日本・新東亞が生れて来る。事變解決は昭和維新の大道である。赫々たる武力戦の掩護の下に思想戦・經濟戦によつて蒋介石を屈伏せしめ得る信念のないものは、昭和維新を口にすべからず、彼等は舊體制から脱し得ざる時代の落伍者である。

ナポレオンの對英戦争に就いて

ナポレオンは云ふまでもなく十八世紀の持久戦争からフランス革命の波に乗じて決戦々争に軍事上の革命をした人でありまして、ナポレオンの最も得意なところは決戦々争であります。世間の常識から云へば皆さんには割に興味が少ないと思はれます。なんとすれば決戦々争は作戦が重点であり、作戦上に非常に興味が多いからであります。ところが持久戦争といふものは、政治経済がその重点になつてゐますから、皆さんには興味が多いのではないかと思ひます。

ナポレオンは大陸の各國に對する個々の戦争では決戦々争を巧みに運用したのであります。併しナポレオンの英國に對する戦は持久戦争に終始したのでありますから、私はナポレオンの對英戦争といふものは、持久戦争時代に生活をし、持久戦争のための戦争計畫に重大なる貢献をしてゐられる皆さんにとりましては、過去の歐

洲大戦と共に、最も重大なる價值あるものと思ひます。

二

ヨーロッパ諸國の世界政策が開始せられまして最初に登場して來ましたのはラテン民族・ポルトガル・スペインで、遅れて立ち上つて來たのがオランダ・英國であります。英國は先づスペインの無敵艦隊を叩きつけオランダを屈服せしめまして、世界政策に非常に良い位置を占めました。がこの時フランスが登場して來まして、フランスと英國とは世界政策のために正面衝突の避くべからざる運命に陥つたのであります。

元來英國の政策といふものは、巧みに外國の力を利用することでありまして、フランスとの戦争にも特に當時のドイツの諸聯邦が英國に巧みに利用せられたのであります。例へば或る學者は、カナダの運命といふものはプロイセンの擲弾兵によつ

て、決せられた——といつてをります。實に英國は七年戦争の間にうまくドイツを混亂に陥れて、その間にカナダを取つてしまつたのであります。かくの如く英國がヨーロッパの諸國に巧妙に働きかけてフランスの邪魔をしましたから、ナポレオンの對英戦争といふものは英國の司令部に對して已むを得ずヨーロッパ全部を敵にして戦はねばならなくなり、戦争のスケールが従つて非常に大きくなつたのであります。フランス革命が始りまして數年後に大陸の諸國に遅れて英國はフランスと戦争状態に入り、十八世紀の末葉、十九世紀のはじめに一番大きな問題であつた世界戦争覇戦といふ決戦の火蓋を切つたのであります。

革命政府の英國に對する戦争方略と、ナポレオンの採つた戦争方略とは大體同じであります、大きくみれば三つであります。

第一は、英國の殖民地を奪取すること。

第二は、直接英國に侵入し、英國を軍事的に屈服せしめること。

ナポレオンの對英戦争に就いて

第三は、經濟戰であり、謂ふところの大陸封鎖であります。

この三つの方法をナポレオンも踏襲したのであります。で、一七九六年と七年のイタリヤ並にオーストリアに對する戰爭によつて、ナポレオンは一躍フランスの支配地位に立つことになり、自然英國に對する戰爭の首腦的地位に押出されて來たのであります。

それでナポレオンは、政略的事情もありましたらうが、最初に先づエジプト遠征といふことを考へました。革命政府もナポレオンのフランスに於ける存在を嫌つた點もありましたらうし、又ナポレオンとしましても仔細に英佛海峡を視察して英國侵入に就いての研究をした結果、これは差當り實行出來ないといふことをみたものでありますから、それでは英國の殖民地を奪取し、それを混亂に陥れようといふ方策を樹て、その一つとしてエジプト遠征を提案し實行したのであります。

エジプト遠征の目的は何であつたか？ といふことは歴史的にみて非常に大きな

問題であります。私はナポレオンは大體二つのことを頭に畫いてをつたのではないかと思ひます。即ち巧みにエジプトに行きこれを取つて英本國に大衝動を與へ、反面フランス國民の精神を昂揚してその勢を驅つて英國に侵入しようといふ考へを持つてをつたのだと思ひます。

併し當時のナポレオンは申すまでもなく統領でもありません……差當り滿洲事變で歸つて來た本庄大將といふところで、人氣のあつた大將に過ぎない。さう思ひ通りなことも出來ませんから、情勢によつてはエジプトから印度までも攻め入つて自分の名譽心を満足さすと共に英國を屈服させる大きな動機にしようといふやうな氣持を持つて征つたのではないか、と私は想像します。

ところが御承知の通り、巧みにネルソン艦隊を捲いて上陸したのであります。が、ちよつとした手落のためアレキサンドリアに近いアプキールでフランス艦隊は全面的悲運に際會したのであります。これは陸戰の方にのみ氣をとられてゐたナポレオ

ンの千慮の一失でした。これで形勢が非常に悪化しまして、一番頼りにしてゐたトルコ迄が英國側について立つといふことになり、フランスとの連絡は益々困難になつて來ました。それからもう一つ幻滅を感じたのはナポレオンは深くエジプトを研究して居つたのですが、エジプトはナポレオンが思つたより遙かに經濟的價値が低かつたことがそれでありました。それでナポレオンはエジプトに孤立して相當困難に際會してゐる時に色々考へまして、エジプトでは食糧物資も豊富ではなく、軍の長期間の駐屯にも種々不便でありますから、逆に兵を率ゐて一七九九年の二月シリアに行つたのであります。併しこの計畫もヤツファに於ける攻城の不成功、サンジャーン・ダークル要塞攻撃の不成功によつて結局失敗に終りましたので、ナポレオンは巧みに機會を擲へてフランス本國に遁げ歸つたのであります。

大體ナポレオンのエジプト遠征は形の上からは失敗に終りましたけれども、ナポレオンの本國にゐることを恐れ煙たがつてゐた執政官達も、ナポレオンの不在中に

イタリヤ戦争に於て得たところのイタリヤやスキツツルの軍事占領後の成果が英國を中心とする對佛同盟の力によつて完全に破壊されてしまひましたので、奇蹟的に歸つて來たナポレオンはフランス國民に非常に歓迎されました。これがフランス國民を中心としてナポレオンが大活動をやつた一つの素地になつたのであります。フランスに歸つて來るやナポレオンは、アルプスを越えまして一八〇〇年にオーストリアを徹底的に叩きつけ、大人氣を博しまして政權をとり第一統領になるのであります。これで愈々ナポレオンは對英戦争について良い位置にいた譯であります。

二

御承知の通りロシアのパウル一世はナポレオンにすつかり惚れ込んでしまつてゐました。ナポレオンもロシアの捕虜に非常に立派な服裝を與へて本國に送り返したため、ロシアの方でも感激して兩國の間は良くなつて來ました。

當時英國が巧みにヨーロッパ諸國を捉へて利用してゐる點は今と同じで、皆知つてをります。それで英國の海上に於ける横暴に對して各國は大陸同盟・武装中立同盟を再興したのであります。これが繼續されて行けば英國は非常に困難な状態になつたのであります。形勢の不利を觀てとつた英國は一八〇一年デンマークのコーペンハーゲンを攻撃するのであります。

利害關係から物を判斷するヨーロッパ諸國は總じて惡辣ですが、英國は歴史的にみて特にひどい。かうした方が自分のためになると決める去何でもやります。それで英國のコーペンハーゲン攻撃によつてデンマークは非常に恐慌を來しました。又一方ナポレオンと親しかつたロシアのパウル一世が暗殺されてしまひました。ロシアのツァールといふものは暗殺される者が多いのであります。このパウル一世暗殺は英國の手が入つてゐるのであります。そんなことどうとう武装同盟は崩壊してしまひましたが、一方英國も永年の對佛戦争で疲れてしまひましたからピット内閣

が崩壊しました。その結果一八〇一年十月ミアンの和約になるのであります。

ナポレオンとしては絶對的に平和が必要であつたのであります。殖民地の再編成をやり海軍を建て直して、英國に對抗すべく努めましたから、一度は平和を欣んだ英國もこのナポレオンの意圖をみて、これは油斷ならぬ、と察しました。世界の情勢を優れた常識的考察によつて達觀する英國人でありますから流石にその眼は確かでありました。そして一八〇三年春に英佛間の平和は再び破れるのであります。

ナポレオンとしては戦をやりたくなく、やるぞやるぞといつて脅かしてゐたらどうにかやらずに濟むだらうといふ氣持であつたのですが、とうとう引込みがつかなくなつて戦争になつてしまつたのであります。

この一八〇三年からナポレオンの没落まで對英戦争は十年以上も繼續されたのであります。

ナポレオンは軍事的に優れてゐただけではなく、政治的にも亦非常に優れてゐま

して、英國と戦争が始つて間もなく、皇帝の地位についたのでありますが、皇帝になつたナポレオンは全力をあげて經濟・政治の有ゆる方面から総合的に英國壓迫の政策を執つたのであります。一番彼の考へたことは英國に侵入するといふことでもあります。戦争になりますと、ナポレオンは沿岸の各造船所に命令して底の平らな船を澤山造らしたのであります。當時の船は主に帆で走つてゐたのでありますが、これは風のない時に困るので、之に乗じていざといふ時は櫂でドーヴァー海峡を漕ぎ渡つて英國に侵入すべく着想して、底の平らな船を造つたのであります。そしてその船をどんだん今のドーヴァー海峡のブローニユ附近に集中し、精兵十萬を英佛海峡に持つて行き敵前上陸を稽古したのであります。

ドイツ海軍の或る優れた軍事通の書いたものをみますと、ドーヴァー海峡についてナポレオンが考へてゐたやうな、風のない適當な天氣の日は年に數日間位はあるだらう、絶対に不可能なことではないが非常に難しい、と言つてをります。その他

ナポレオンは大きな風船を飛ばして澤山兵隊を積んでゆくことや潜水艦をも考へてをります。

一八〇四年、蒸汽船を發明したフルトンがセーヌ河で蒸汽船の試験をやつてをりますが、この時はとうとう成功しませんでした。若し蒸汽船が出来さへすれば、帆前船が立往生してゐる時にどんだんドーヴァー海峡を渡つて攻めて行くことが出来たのでありますから、ナポレオンにとつても英國にとつても運命が變つてゐたかも知れませんが、幸か不幸かその時はまだ蒸汽船は完成されず、その後一八〇七年にハドンズ灣に於て成功をみたのであります。

ナポレオンは有ゆる智囊を集めて新兵器の發明に苦心し、ドーヴァー海峡の數時間間の支配權・制海權を得べく努力しました。實際ナポレオンはドーヴァー海峡を渡り英國に上陸出来たら忽ちに英國を屈服し得る堅い自信を持つて居たのであります。

四

當時エチプトのアプキールで殲滅されたフランス艦隊のうち残存してゐた艦隊を、ツーロン艦隊司令官であつたラトゥーシユ提督が爾來六年間銳意再建に努めましてツーロンに待機してゐたのであります。ナポレオンはこのフランス唯一の司令官であつたラトゥーシユをして艦隊を率ゐて密にツーロンを脱出せしめ、隨時ドーヴァー海峡に出で、ブレスト附近を封鎖してゐる英國艦隊を撃破して制海權を握るといふ方策を建てましたが、遺憾ながらこのナポレオンの信任厚かつたラトゥーシユは一八〇四年八月に死んでしまつたのであります。このことはナポレオンの對英作戰に殆ど致命的打撃を與へました。このためナポレオンは計畫を變更せねばならなくなり、一八〇五年の春に新しい計畫を樹てまして、ラトゥーシユの後任には適當の人なく止むなくロシユフオール（Fouquieres）の司令官ヴィルヌーヴといふ、後にトラファル

ガルに於てネルソンに破られた提督を起用することとなりました。

一八〇五年春の新しい計畫では、ツーロン艦隊とブレストに封鎖されてゐる大西洋艦隊を密に脱出させて、西印度の英領殖民地を衝くが如くみせかけ、ネルソンやその他の英國艦隊が周章して追つて來るのを待つて途中で英艦を捲き、逆にどつとドーヴァー海峡に歸つて來て英本國を攻める——といふ方針でした。ツーロン艦隊は三月末にうまく脱出し、ナポレオンは再びエチプトに行くやうにもみせかけ、又イタリヤの南部を通りマルタ島を攻めるやうにもみせかけて、ネルソンがそらいつた！ といふ時にジブラルタルを抜けて西印度に行つたのであります。一方ブレストの艦隊は非常に好都合な時期であつたにも拘らず、遂に脱出の機會を失つてしまつたのであります。ツーロン艦隊は途中スペイン艦隊と合し、西印度諸島に示威運動をやりましてドーヴァー海峡に歸つて來たのであります。ナポレオンは四月初めにイタリヤに行き、ミラノでイタリヤ王の王冠を戴いたりして計畫を極力カムフラ

イジユするに努めました。ネルソンはナポレオンの考へた通り遅れて西印度にツーロン艦隊を追ひかけて行つたのでありますが、ツーロン艦隊はうまくネルソンの艦隊を捲いて逃げて來たのであります。それを知つたナポレオンは「我が事成れり」と七月初めにイタリヤを發つてドーヴァー海峡に行き、今か今かとフランス艦隊の來るのを待つてゐたのであります。併しナポレオンの大なる期待に反し、ツーロン艦隊司令官のヴィルヌーヴは凡庸な將であり、而も長年に互つてツーロン艦隊は封鎖されてゐたので訓練その他十分でなかつたのであります。そしてネルソンを捲いて北上中、英國の通報艦が見付け周章してロンドンに急報したので、英國では大いに驚き一艦隊を編成してこのツーロン艦隊を邀撃したのであります。ところがヴィルヌーヴに戰意なく、開戦後大した損害ではなかつたが、ナポレオンの考へに反してドーヴァー海峡には來らず、スペイン北端のコーニア港に入港してしまひました。ナポレオンは大憤慨し、直ちにヴィルヌーヴにプレストに來るやう再三命令し

ましたが、ヴィルヌーヴはこれを聞かず更に北上すべきところを反對にスペイン南端のカヂス港に逃込んでしまひました。ナポレオンの最も大切な機會は斯くの如くして逸し去つてしまつたのであります。

この當時英國は非常な危機に直面してゐたので、極力ヨーロッパ大陸諸國の買収・フランスとの離間に努めました。先づ眼をつけたのがオーストリアで、當時オーストリアは大分弱つてゐましたが、ナポレオンがイタリヤの王位についたことに對して非常な刺戟を受けましてとうとう蹶起するに至りました。オーストリアの態度が怪しいと睨んだナポレオンはドーヴァー海峡の海上支配はもう駄目だとみてとりまして、心機一轉、英佛海峡に集中してをりました十萬以上の大軍と國內の大軍を集め、オーストリア軍の進入してゐる南獨に對して新しい編成をとつて大進軍を開始したのであります。これが近代用兵術の或る意味に於ての發足點であります。

オーストリア軍の司令官マック大將はロシア軍の來援を待たず九月三日進んで南

獨バヴァリアのウルムに入りました。ナポレオンは咄嗟にこのウルム包圍作戰を採り強行軍を重ねる一方、オーストリア軍とロシア軍の連絡を斷つ等周到且つ大膽迅速な大迂回運動を以てウルムに於けるオーストリア軍を全く包圍し、五日にしてマツク大將以下全部を降伏させウイーンに入つたのです。

一八〇五年十一月廿八日ナポレオンはウイーンの北方約百キロの地點にあるアウステルリッツにフランス主力を集結せしめました。オーストリア・ロシアの聯合軍との決戦は刻々迫つて來た。ナポレオンの作戰は、右翼を故意に薄弱とみせかけて、奥露聯合軍の戦線が延びて手薄となつた時に一氣に中央を突破し、兩軍の連絡を斷つて個々を撃破するにあつたのであります。この作戰は見事に奏效して、十二月二日ナポレオンはオーストリアとロシアの聯合軍を撃破して大勝を得ました。聯合軍は八萬六千、ナポレオン軍は七萬三千であります。

この敗戦によりオーストリアのフランシス二世はナポレオンに休戦を請ひ十二月

廿六日プレスブルグの條約となつて平和を結ぶのであります。

茲に重大なことはウルムの大捷後二日目十月廿一日トラファルガルに於てフランスのツーロン艦隊がネルソンに徹底的に叩きつけられたことであります。この時ネルソンの英艦隊は二十七隻、ヴィルヌーヴのフランス・スペイン聯合艦隊は三十四隻でしたが、このうち撃沈捕獲されたもの二十三隻、ヴィルヌーヴも捕虜になつたやうな始末で、これで制海權は完全に英國に奪はれてしまつたのであります。

アウステルリッツの戦果とトラファルガルの戦果の價値を強ひて比較する事は無理であります。陸戦に於てはフランスが壓倒的に勝ち海戦に於ては英國が絶對的に制海權を獲得した譯でありまして、どちらも非常に大きなものであります。アウステルリッツに於けるナポレオンの大勝は、對佛歐洲同盟を牛耳つてナポレオンに對抗して來た英宰相ピットをして「そのヨーロッパの地圖を卷いてしまへ！ 今後十年間は再び地圖をみる必要はなくなつた！」との悲痛な言葉を言はしめた程の

効果があつたのであります。事實ウオーターローの會戦はこれから十年の後であります。主に英國から學んでゐる學者や海軍の方ではトラファルガルの勝利に比すればアウステルリッツの勝利の方が小さいやうに考へてゐる向きもありますが、ドイツの學者等はこのアウステルリッツの戦果を非常に大きく見てをります。アウステルリッツの敗戦によつて英國側の受けた精神的打撃は非常なものでありまして、ピットもこの敗戦の結果自分の經營した大同盟の全く破壊されたのを見て、憤激と絶望の餘り病弱な體を急激に悪化させ、翌一八〇六年一月廿三日遂に死んでしまひ、その後繼はナポレオンの崇拜者にして常にピットの主戦主義に反對してゐたフォックスを外相としたグレンヴィル卿内閣になります。

この内閣は前のピット内閣と違ひ、親佛的傾向を持つてゐたので、ナポレオンはこのフォックスとの平和交渉のために曩に大陸に於ける英國の策源地であつた英領ハノーヴァをプロシヤにやると約束してをりましたが、突然その約束を蹂躪して英

國に還付しようとしたので、プロシヤも憤激し、遂に決斷力に乏しい國王フリードリッヒ・ウイルヘルムも意を決して一八〇六年九月フランスに宣戦をしたので、ナポレオンとしては、必ずしも希望しなかつたがプロシヤに對して戦争を開始したのであります。ザールフェルトでプロシヤ軍を撃破し、續いて十月十四日イエナの大戦で大勝利を得ました。この大戦はプロシヤ軍五萬に對してナポレオン軍は十二萬の壓倒的優勢でした。そしてこの日ナポレオンの部下ダヴィ將軍の率ゐる別働隊がアウエルシュテットに於て退却中の敵の主力を破りました。ナポレオンは有名なる大追撃を敢行してプロシヤ軍を殆ど潰滅に陥れ、イエナ大勝利より十三日後の十月廿七日にナポレオンはベルリンに入城しました。

五

この頃英國のフランスに對する態度は次第に硬化して參りましたので、ナポレオ

ンは一八〇六年十一月廿一日、シヤロツテンブルグ城に於て全ヨーロッパに對し對英大陸封鎖令を宣布しました。ナポレオンは即ち「陸を以て海を制せん」とフランスの支配下にあるヨーロッパ諸國の港灣を英國の通商に對して悉く封鎖したのであります。爾後これがナポレオンの對英戦争の根幹になる譯であります。

ナポレオンは大陸封鎖令を出しましてから今のポーランドに兵を進めてプロシヤを討ちました。プロシヤは破つたがロシアが頑強に抵抗するので、一八〇七年一月一日ナポレオンはワルソーに入り、ワルソーの北方に冬營いたします。ナポレオンは此處で決戦戦争と違つた非常な悲惨な經驗をしてゐます。あの不毛の東プロシヤに入つて後、軍隊は非常に苦しみまして一八〇七年二月九日アイロウに於ける普露兩軍との戦闘では殆ど敗北してゐたのであります。幸ひロシアが逃げてゐたのでよかつたのであります。嚴寒の候ではあり非常な損害を受けたのであります。

一八〇七年の六月にフリードランドでロシア軍に大打撃を與へてチルジットの和

議となり、ロシアと共同して對英封鎖をやり、同時にロシアと提携してナポレオンのかねての希望である印度方面に進出しまして英國殖民地の崩壊を齎さう、これで對英戦争の結末をつけようといふ方針になつたのであります。ナポレオンとしても非常に苦しい立場にありました。元來、英國は經濟上ヨーロッパ大陸諸國の敵であります。大陸に先んじて政治革命を終り産業革命を終つた英國は輕工業において大陸經濟を壓迫してゐます。のみならず世界政策・殖民地政策で十八世紀に非常な成功をしてをり、その殖民地の香料とか砂糖とかいふものを大陸に押賣りする極端な片貿易状況でありましたから、ヨーロッパ諸國は英國の經濟支配に憤慨し困つてゐた譯であります。それ故に、若し本當にこのヨーロッパ大陸のいはゆる經濟一體化を圖つて英國に對抗し得る狀況に置いたならば、非常に合理的に戦争が出来た譯であります。ナポレオンは卑近な例で云へば成金者ですから、人氣をとることが第一であります。で、パリジャンの喝采を拍するためにいけないと思ひながらも、當

然自分と味方でなければならぬところのヨーロッパ大陸に對して反民族協和的な帝國主義的搾取的政策をとらなければならぬ状況にあつたのです。困難を知つてゐたがさういふ關係で結局ヨーロッパを全部敵として戦ふといふ状態になりました。戦争の前途樂觀すべからず、どうかして早く戦争を解決しなければならぬので、結局封鎖に價值のあるスペイン・ポルトガルを手に入れようといふことになりました。ナポレオンはスペインに對しては軍事的には問題にしてゐなかつたのであります。この日支事變以前に日本は支那の武力に對して關心が薄かつたらうと思ひますが、それ以上にナポレオンはスペインを馬鹿にしてゐたのであります。そのスペインに兵を持つて行くには不安な東ヨーロッパの形勢を緩和しなければいけませんから、一八〇八年にロシアのアレキサンダーと手を握らうとしてエルフルトの會見となつたのであります。ナポレオンの思ふやうには成功しなかつたのであります。その大きな原因は、既に苦しくなつたフランス人がナポレオンの雄大な對英戦争の本質

を諒解出来なくて、タレーランやフーシェ等のフランス政界の中心人物がツァールと通じて反ナポレオン政策をとつてゐたことにあるのであります。ナポレオンの國民統制は既に亂れかけてゐました。さういふ状況を知つてゐますから、スペインに送つた軍には相當の注意を拂つてゐたにも拘らず、豫期に反してスペインで失敗を招くのであります。熱狂的なスペインの國民性と遊撃戰に適應した山岳地帯の地形、それに海に圍まれてゐますからフランスはピレネー山脈を越えて長距離輸送をしなければならぬのに反して、イギリスは所在に海上輸送して豫期以上の兵力を集中出来ました。これ等がその原因であります。ナポレオンの没落はこのスペインに於ける軍事的不成功が根本的原因なのであります。それ迄はヨーロッパ大陸で戦争をしましても、戦ひによつて戦ひを培養する——敵國のものを獲り敵國から賠償金を召し上げてやつて行く、といつたやうに戦争はナポレオンにとつて有望な企業でありました。ところがこのスペインだけは完全な赤字の戦争になつたのであります。

す。それに乗じて一八〇九年のオーストリアの再蹶起になります。で、スペインの事半ばにしてとうとう大軍を再びオーストリアに向けなければならなくなりました。この戦では相當苦戦いたしましたしてレーゲンスブルグで勝利を得、ウィーンを陥れましたがドナウ河を渡るアスペルンの戦ひではオーストリア軍の戦死二萬四千、フランス軍三萬、而もナポレオンの勇將ランヌもその中の一人であつた如き敗戦を喫し、一度渡つた河を再び渡つて還り、三度渡つて遂にワグラムの勝利をかち得ましたが、ナポレオン自身必ずしも常勝軍ではないといふ體驗をしなければならなかつたのであります。ワグラムの戦勝でナポレオンは平和を結ぶことが出来ましたが、スペインにはいよいよ金を注入しなければならなくなりました。しかし今になつて歴史を回顧すると一八一〇年一一年といふものは英國側も爲替相場は下落するし、食物はなくなつてくるし、大陸封鎖の効果が英國の上に現はれてをつたのであります。英國の歴史家の中にもあの時ナポレオンが食糧の輸出を斷乎として拒んだならば英國

は十年か十一年には屈服しなければならなかつたらう、と云つてゐる人があります。あの優れたるナポレオンも經濟のことについてはあの時代の重商主義の觀念を離れることが出来なかつたらしく、ナポレオン自身が親方になつて食料の密輸出をやつたやうであります。うんと英國から金をとつたらそれで參ると思ひ、英國の食料難に乗じて儲けてゐたらしいのであります。ナポレオンは勝利の一步手前迄來てゐました。英國は乗るか反るかといふことになつて、非常な力で露國に働きかけます。フランス國內でもフーシエやタレーランが策動するし、ナポレオンはツァールとの約束に背いてオルデンブルグ公のエルベ河の地域を回收するといふことになり、ロシアとの關係が悪化して來ました。英國が勝つか、ナポレオンが勝つかの境目であります。

六

私共が軍事的見地より見まして、ナポレオンにスペインに於ける不成功がなく、大軍でドイツを押へ、ロシアに對する斷乎たる態度が十分であつたならば或は勝つたかも知れぬと思ひますが、スペインの不成功でナポレオンの勢力が吸収されたものですから、鼎の輕重を問はれます。その上ツァールが英國と通牒することになりました。云ふまでもなく、ロシアは穀物を英國に賣つて儲けてゐるので、地主連中が大陸封鎖に不満な上に、ナポレオン自身が密輸で儲けてゐるといふのですから、益、承知出来なくなりませす。ナポレオンとしてはロシアと戦争して不利益なことを百も承知してゐます。一八〇六年から七年のポーランドや東プロシヤに於ける戦争が如何に困難であつたかを知つてゐますから、戦争をせず「コラッ！」と「斷乎外交」「斷乎一蹴外交」で嚇してやつたらツァールも參るだらうと思ひ、「斷乎」「斷乎」をやつてゐるうちに何とも退引ならぬやうになつて、一八一二年の戦争になつたのであります。ナポレオンは絶対に嫌だつたのですが最早どうにもならなくなつ

たのであります。しかしいよいよ戦争になるとロシア遠征の準備は素晴らしいものであります。東プロシヤの奥の方に兵隊を集めて一方ロシア軍をワルソフの方に牽制する。ワルソフはロシアの垂涎の地でありますから其處に引つけて置いて東プロシヤの方からロシア軍の背後に一舉に出て来る、といふ方略でありました。この戦略は遂に目的を達せず、ツァールは逃げるのであります。ツァールは、トルストイによれば神の導きによつてやつたのであります。ナポレオンは國境から遠く出てはいけないと思ひました。連日非常に雨が降りまして雨に濡れた青草を喰ふから馬がばた／＼斃れ數日の中に一萬頭も斃死するやうな具合で輜重が續かないのであります。それにこれもトルストイによれば神の導きによつてアレキサンダーは軍隊から離れてペテルブルグに行つてしまひました。アレキサンダーが軍中にゐたなら媾和の氣持になつたかも知れませんが、今はペテルブルグに行つてしまひました。ナポレオンはスモウレンスク以東には斷じて進まぬ肚でありましたが、背後のヨ

ロッパが怪しくなつてゐる。パリではフーシェ一黨が怪しい。一八〇六年七年の經驗でスモウレンスクを出て行くといふことは殆ど覆滅的危險に遭遇することを百も知つてゐましたがぐづぐづすれば國內が危い、乗るか反るかで其處まで行くとなポレオンは其の本能的突進性を發揮して最後の博奕でモスコイまで行つたのであります。多くの人は輕はずみで行つたやうに思ふがこれはナポレオンにとつては最も深刻に悩み抜き考へ抜いた結果、對英戦争の結末をつけるため最後に残された手段として總べてを賭してやつたわけでありす。さうして御承知の結果になりました。一八一三年以後の戦争は殞れた獅子の争ひであつて、英國側にやられたのであります。しかも一八〇六年イエナでナポレオンに敗れたブリュッヘルの指揮するプロシヤ軍はその後ナポレオンと同じ戦術を使ふやうになりました。敵側もこの革命戦術を體得しましたので、最早段違ひの戦争は出来なくなりました。ナポレオンの能力も増進して行つたがさうなつたのであります。

フランスは英國との世界政策の争覇戦において最後に本當に優れた天才ナポレオンを得て、その統率の下に英國との最後の争覇戦をやるところに來ましたが、遺憾ながらフランス國民はナポレオンを最後まで信賴することが出來ず、ナポレオンを裏切つて永久に英國の風下に立たねばならぬ結果に立到つたのであります。今頃ナポレオン崇拜を幾らやつてもフランスは後の祭であります。

七

今東亞において日本は支那に對して長期戦をやつてゐますが、今申しましたナポレオンの對英戦争は今次の日支事變と較べて比較的似た戦争であります。日支事變を古い戦争に教訓を求めればナポレオンの對英戦争であり、ナポレオンは日本の立場であります。今度の戦争も、その智腦的敵は英國であります。英國は實力を持たないかはりに旨く外力を使ふ。さうしてナポレオンに對するヨーロッパ大陸に支那

が使はれてゐるのであります。申上げる迄もなくあの歐米の搾取經濟から日支共に救はれなければならぬといふことはわかりきつたことであります。又日本の東亞新秩序建設の一つの目標はあの停頓してゐる支那の社會的情勢を打破つて、本當に新しい政治革命を完成させてやらうといふことであります。丁度ナポレオンの、フランスによつて封建の重壓下にある大陸を經濟的に思想的に政治的に救つてやらうといふ氣持と同じものを我々は支那に向つて持つてゐるのであります。ヨーロッパ大陸はナポレオンにとつて味方であるべきものだつた、丁度それと同じに日本は味方であるべきものを叩いてゐるのであります、これはナポレオンと同じ經路をふんでゐるのであります。殊に今度の歐洲戰爭の狀況が日英事を構へるといふやうな狀況になつて行くとしたならば、英國が支那をナポレオンに對するスペインのやうに使ふために極力努力することは明瞭であります。即ちいざとなれば日本の勢力を支那大陸に深く吸込まうといふことに更に惡辣な努力を拂つて行くことは明瞭であり

ます。そして、ナポレオンに對してロシアを使つたやうに、ソ聯邦の巨大な陸軍やアメリカの海軍を使はうといふのが、自然の勢ひであらうと思ひます。

この見地から見て、日支事變は百年前のナポレオンの戰爭に比較してそれと似た態勢をとつてゐるのであります。しかし、日本はフランスではありませぬ。天皇を中心として億兆一心、最後迄團結を守つて行く國でありますから、ナポレオンを裏切つたフランスと同様にはゆきませぬ。軍事的に言つても、ロシアのスティムローラーを押へるためにナポレオンの考へた同盟とは違ひまして、確乎たる滿洲國との同盟を持つてゐます。滿洲國の軍事的地位といふものは非常に立派な位置を占めてゐるのであります。それで私共は夢さらさら英國を首腦とする日本に對する戰爭によつて、ナポレオンのやうな失敗を見ようといふことはありませぬが、戦の本質そのものは似てゐるといふことをお考へになつて、日本の戰爭を指導して行く見地から言つて幾多參考にしなければならぬ點があると思ひます。

八

最後にナポレオン戦争以後の英國の状況を軍事的に簡単に観てみますと、ナポレオンの没落、云ひ換へればフランスの失脚といふことによりまして、英國は約百年の本當に一番華の時代を迎へたのであります。十九世紀は英國の一番立派な時代で、ヨーロッパに敵なしでありました。それで考へて頂かなければならないのは、英國は斷然たる海軍を西大西洋に持つてゐたといふことであります。敵はヨーロッパしかありません。歐洲から殖民地に行くには英國の前を船で行かなければならない。其處をうまく押へれば、世界に於ける殖民地は全部英國の支配下にあつたのであります。其の上大陸ではフランス・ドイツ・オーストリアを争はして居れば、此の上なく安泰であつたのであります。さういふ軍事的に優れた位置にあつたため、所謂海主陸従の國防的に有利な態勢の下に百年間の太平を夢見て居

つたのであります。十九世紀の末葉、ロシアが強くなつて海によらずして印度に出よう極東に出ようといふことで、英國の重大な利益地域はロシアの壓迫を受けましたから、日本を番犬に使つて極東及び印度を防衛する態勢をとつたのであります。かくて段々英國の世界制覇に罅が入りかけて來た時に起つた問題は近世ドイツの勃興であります。三B政策、即ちその大陸から埃及を衝かう印度を衝かうといふ政策であります。ナポレオン歿後、初めて大きな敵を英國は發見したわけであります。ドイツの今日あるはナポレオンのお蔭であると常に私は云ふのであります。ナポレオンが現はれる迄は千以上の行政國家にわかれて居つた。ナポレオンは封建制を破壊し世界主義によつて、ドイツ國民を救はうとしたのですから、ナポレオンの没落時には千から五十以下となつたのであります。今日のドイツ民族の復興に對してはナポレオンに對して感謝をしなければならぬものがあると思ひます。それが段々力を持つて來て、カイゼルは英國に對する海軍を造るといふことになり、それが大問

題になつて來ました。それ迄ドイツの連中はナポレオンを名譽心の權化たる暴君と信じて居りました。ナポレオン崇拜者は暴君との、しりながら其の力に惚れ込んで居たのであります。然るに十九世紀末、即ち獨逸が英國と世界政策を争ふことになつてからは、心からナポレオンの行爲を是認し、全面的に讚美することとなり、歐洲大戰前獨逸に於けるナポレオンの研究・崇拜はフランスを凌ぐ状態でありました。私も歐洲戦争については少し勉強しましたが、日本人はどうしても主に英語で勉強しますから殆ど英國流に考へて居つたのであります。更にヒットラーの言ふ通り宣傳力にかけては素晴らしい英國であります。いけないと思ひ乍らやられて仕舞ふ。米國のドイツに對する宣戰の原因となつたルシタニア號の沈没事件、あれは今日アメリカの有識階級の間では英國の潜水艦がやつたことと相當廣く信ぜられてゐると言はれてゐます。本當かどうか知りませぬが、宣傳力は非常なものです。ヨーロッパの連中は日本を英國の半屬國と思つて居りました。嘗て私がジュネーヴの聯盟總會

の歸りにドイツ人の友人に會ひましたら、私の手を固く握つて「貴様今度こそ日本は英國から獨立したなア」……かういふ調子で日本は英國に楯つけると思つてゐなかつたのであります。さういふ關係で過去のヨーロッパ戦争の責任はドイツにあるやうに思つてゐるが、ドイツにもイギリスにも積極的に戦をやらうといふ政治家は歐洲戦争時代にはなく兩方共回避しようとしたが、寧ろ私は、のびのびになると新興ドイツに有利でありますから、聰明な英國側から第一次ヨーロッパ大戰に於ける積極的に働きかける気分があつたものと思ひます。さうしてナポレオン時代英國の敵であつたフランスを同伴につれて、實は一番の犠牲をそちらに拂はせて、ヨーロッパに於ける最後の敵であるドイツをやつつけたのが第一次歐洲戦争であります。ドイツ人はフランスが敵でないことを皆知つてゐる、フランス人もわかつてゐる。わかつてはゐるが英國の何といふか政治的魅力といふか、それが素晴らしいのであります。歐洲戦争後はフランスが威張り出したのでドイツを使ひました。一九二二

年のルールの出兵、これは英國がフランスをたきつけてやらせておき乍ら、ドイツに行つてはどうもフランスのやり方は酷い、酷いが條約があるから何とも出来なかつた、同情は十分持つてゐると色氣たつぷりにやつてゐる。これは私は間違ひないと思ひます。ところがこれだけ惡辣な英國も第一次歐洲戰爭以後初めて救ふべからざる類勢になつて來たのであります。何故か？ それはアメリカと日本の勃興であります。これは幾ら小刀細工をやつても駄目で、歐洲戰爭以後英國は崩壊史の本論に入つたわけでありませぬ。カナダに領地を持つてゐますが軍事的に云へば英國のもではありません。これは米國の武力の支配下にあります。濠洲・シンガポール以東は日本の武力の支配下にあります。軍事的に見て印度は日本とソ聯邦の武力、アラビヤ附近はソ聯邦の武力支配下にあつて、防衛は困難であります。本當に英國海軍によつて支配し得るものは大體アフリカだけしかないと思ひます。英國はベルギー・オランダ等と同様に、實力以上の尨大なる領土を持つてゐるのであります。こ

れは歴史的惰性と外交上の驅引によつて惰性的に地位を保つてゐるだけで、實力的には英帝國は崩壊してゐるのが今日の狀態であります。

編輯後記

この數年來、日本の東亞の「在り方」に對する出版物は汗牛充棟の感がある。然しその「在り方」が世界史的な雄渾な規模をもち、烈々たる理想と確固たる現實性の綜合統一をなしたる内容をもちたるものは五指を數へるに過ぎないと思ふ。

この時石原莞爾閣下の「國防政治論」を剞劂に附するの機會を恵まれたことは右の要請に應ずるものとして欣快の情禁じ得ざるものがある。

但し日本の客觀的諸情勢に規制されて第一章第三節全部、第二章第三節の一と二の間に挿入さるべきもの全部と所々多數削除の止むなきに到りたることは甚だ残念と思ふが致し方のない次第である。

この點出版の事務的處理者として閣下及び讀者諸氏に深くお詫びする次第である。

終りに一々の御姓名は省略するがこの出版について陰ながら御盡力御支援を賜はつた諸氏に感謝の意を捧げる。

昭和十七年九月末日

東亞聯盟協會會員

山本勝之助

落丁亂丁等の不完全な品がありました節は直接御申込下さい。何時でも取替ます。

昭和十七年十月五日初版印刷
昭和十七年十月十日初版發行 (五〇〇〇部)

國防政治論

●定價二圓

著作者

石原莞爾

發行者

小野宗治

印刷者

高橋郁

發行所

東京市神田區神保町一ノ二二
聖紀書房
文協會員番號一四〇七六
電話神田(25)二〇六八番
銀座口座東京一二五八八番

出文協承認
あ 280038



印刷・三協印刷株式會社
製本・小林製本所

配給元

東京市神田區
淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社

